



# Sun Fire™ エントリーレベル ミッドレンジシステム コントローラ コマンドリファレンスマニュアル

---

ファームウェアリリース 5.20.0

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-5589-10  
2006 年 4 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Fire, Netra, OpenBoot, SunSolve は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire Entry-Level Midrange System Controller Command Reference Manual, Firmware Release 5.20.0 Part No: 819-5085-10 Revision A
-----	---



# 目次

---

はじめに xi

1. コマンドリファレンス (アルファベット順) 1
  - システムコントローラコマンドの概要 1
  - FRU 状態およびテスト状態 3
  - システムコントローラコマンド一覧 (アルファベット順) 5
    - addcodlicense 6
    - bootmode 7
    - break 9
    - console 10
    - deletecodlicense 11
    - disablecomponent 13
    - enablecomponent 14
    - flashupdate 15
    - help 19
    - history 21
    - inventory 22
    - logout 23
    - password 24
    - poweroff 25

poweron 27  
reset 29  
resetsc 31  
restartssh 33  
setalarm 34  
setdate 35  
setescape 38  
seteventreporting 40  
setlocator 42  
setls 43  
setupnetwork 47  
setupsc 49  
showalarm 53  
showboards 55  
showcodlicense 66  
showcodusage 68  
showcomponent 70  
showdate 73  
showenvironment 74  
showerrorbuffer 78  
showescape 81  
showeventreporting 82  
showfault 83  
showhostname 84  
showlocator 85  
showlogs 86  
showmodel 91  
shownetwork 92

showresetstate	94
showsc	95
shutdown	96
ssh-keygen	97
testboard	99

用語集	101
-----	-----

索引	103
----	-----



# 表目次

---

表 1	システムコントローラコマンドの概要	1
表 2	FRU の状態	3
表 3	テストの状態	4
表 4	CPU/メモリーボードの位置の説明	44
表 5	I/O アセンブリの位置の説明	44
表 6	setupnetwork の属性	47
表 7	showboards コマンドの出力ヘッダーの説明	65
表 8	COD ライセンス情報	66
表 9	showcodusage ドメイン情報	69
表 10	showcomponent コマンドの説明	70
表 11	showenvironment コマンドの出力ヘッダーの説明	77





# コード例

---

- コード例 1      `deletecodlicense` コマンドの例 12
- コード例 2      I/O アセンブリのフラッシュ PROM を更新するための `flashupdate` コマンド 17
- コード例 3      `history` コマンド 21
- コード例 4      `password` コマンド 24
- コード例 5      システムコントローラをリセットするための `resetsc` コマンド 31
- コード例 6      スロット sb4 の CPU/メモリーボードの位置を使用可能にする `setls` コマンドの例 45
- コード例 7      スロット ib6 の I/O アセンブリの位置を使用可能にする `setls` コマンドの例 45
- コード例 8      スロット sb0 および CPU ポート 3 の CPU/メモリーボードの位置を使用不可にする `setls` コマンドの例 45
- コード例 9      スロット sb4 の CPU/メモリーボードの位置を使用不可にする `setls` コマンドの例 46
- コード例 10     `showboards` コマンド 56
- コード例 11     `showboards -e` コマンド 56
- コード例 12     `showboards -v` コマンド 57
- コード例 13     `showboards -p memory` コマンド 63
- コード例 14     `showboards -p version` コマンド 63
- コード例 15     `showboards -p io` コマンド 63
- コード例 16     `showboards -p serial` コマンド 64
- コード例 17     `showboards -p cpu` コマンド 65
- コード例 18     `showcodlicense` コマンドの出力例 – わかりやすく加工された COD RTU ライセンスデータ 67
- コード例 19     `showcodlicense -r` コマンドの出力例 – COD RTU ライセンスキー 67

コード例 20	<code>showcodlicense -v</code> コマンドの出力例 – わかりやすく加工された COD RTU ライセンスデータと加工されていない COD RTU ライセンスデータ 67
コード例 21	<code>showcodusage</code> コマンドのドメイン別の出力例 68
コード例 22	<code>showcodusage</code> コマンドのリソース別およびドメイン別の出力例 69
コード例 23	CPU/メモリーボードに対する <code>showcomponent</code> コマンド 71
コード例 24	IB_SSC FRU の IB6 サブアセンブリに対する <code>showcomponent</code> コマンド 72
コード例 25	<code>showdate</code> コマンド 73
コード例 26	<code>showenvironment</code> コマンド 75
コード例 27	<code>showerrorbuffer</code> コマンドのハードウェアエラーの出力例 79
コード例 28	<code>showerrorbuffer</code> コマンドの出力例 – 永続的に保存されたエラー情報 79
コード例 29	システムの再起動後に実行する <code>showlogs</code> コマンドの出力例 87
コード例 30	<code>showlogs</code> の永続ログの出力例 88
コード例 31	<code>showlogs</code> の永続ログの出力例、重大 (Critical) メッセージのみ 89
コード例 32	<code>showlogs</code> の永続ログの出力例、指定した件数のメッセージの表示 90
コード例 33	<code>showsc</code> コマンド 95
コード例 34	<code>ssh-keygen</code> コマンドの例 98

# はじめに

---

このマニュアルでは、システムコントローラのコマンド行インタフェースの使用方法について説明します。システムコントローラのコマンド行インタフェースでは、システムの機能を制御して、環境の監視およびハードウェアの制御を行います。システムコントローラソフトウェアを使用すると、ボード、電源装置、ファン、およびその他のコンポーネントの電源投入と切断を実行できます。

---

## お読みになる前に

このマニュアルは、Solaris™ オペレーティングシステムに関する知識を持つシステム管理者を対象としています。そのような知識がない場合は、まず、Solaris のユーザーおよびシステム管理者用 AnswerBook を読み、UNIX® システム管理のトレーニングを受けることをお勧めします。

---

## マニュアルの構成

このマニュアルでは、一般ユーザー用に設計されたすべてのシステムコントローラコマンドの概要について説明します。また、コマンドをアルファベット順に示して、その詳細、コマンド構文、およびコマンドの出力例について説明します。

---

## 書体と記号について

書体または記号 <sup>1</sup>	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% <b>grep</b> '^#define \ XV_VERSION_STRING'

1 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

---

## シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine_name</i> %
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
LOM シェル	lom>

---

## 関連マニュアル

オンラインのマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/>

用途	タイトル	Part No.
システム管理	『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』	819-5593-10

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	<a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>
サポート	<a href="http://jp.sun.com/support/">http://jp.sun.com/support/</a>
トレーニング	<a href="http://jp.sun.com/training">http://jp.sun.com/training</a>

---

## コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』、Part No. 819-5589-10



# コマンドリファレンス (アルファベット順)

このマニュアルでは、エン트리レベルミッドレンジシステム (Sun Fire™ E2900、Sun Fire V1280、Netra™ 1280、および Netra 1290) の一般ユーザー用に設計されたすべてのシステムコントローラコマンドの概要を一覧で示します。また、各システムコントローラコマンドの詳細、コマンド構文、および使用例について説明します。

## システムコントローラコマンドの概要

表 1 に、システムコントローラコマンドとその使用方法を示します。

表 1 システムコントローラコマンドの概要

コマンド	説明
<code>addcodlicense</code>	COD (Capacity on Demand) ライセンスデータベースに、COD 使用権 (RTU : Right-to-Use) ライセンスキーを追加します。
<code>bootmode</code>	次の再起動時に Solaris OS が起動する方法を設定します。
<code>break</code>	コンソールにブレイク信号を送信します。
<code>console</code>	コンソール接続を開きます。
<code>deletecodlicense</code>	COD ライセンスデータベースから、COD 使用権 (RTU) ライセンスキーを削除します。
<code>disablecomponent</code>	リリース 5.17.0 以降は、このコマンドを使用せずに、代わりに <code>setls</code> コマンドを使用してください。
<code>enablecomponent</code>	リリース 5.17.0 以降は、このコマンドを使用せずに、代わりに <code>setls</code> コマンドを使用してください。
<code>flashupdate</code>	フラッシュ PROM を更新します。
<code>help</code>	基本的なヘルプ情報を表示します。

表 1 システムコントローラコマンドの概要 (続き)

コマンド	説明
history	コマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。
inventory	FRU またはシステムの SEEPROM の内容を表示します。
logout	接続からログアウトします。
password	LOM のアクセスパスワードを設定します。
poweroff	システムまたはコンポーネントの電源を切ります。
poweron	システムまたはコンポーネントの電源を入れます。
reset	システムをリセットします。
resetsc	システムコントローラ (LOM) をリセットします。
restartssh	SSH サーバーを再起動して、最新のホスト鍵を読み込み、格納します。
setalarm	システムアラームを設定します。
setdate	システムコントローラの日付、時刻、およびタイムゾーンを設定します。
setescape	LOM のエスケープ文字を設定します。
seteventreporting	イベントレポートを設定します。
setlocator	ロケータ LED を設定します。
setls	コンポーネント位置の状態を設定します。リリース 5.17.0 以降は、enablecomponent および disablecomponent コマンドの代わりにこのコマンドを使用してください。
setupnetwork	LOM のネットワーク属性を設定します。
setupsc	システムコントローラ (LOM) を設定します。
showalarm	システムアラーム LED の状態を表示します。
showboards	システムのボードの状態および割り当てに関する情報を表示します。
showcodlicense	COD ライセンスデータベースに現在格納されている COD 使用权 (RTU) ライセンスを表示します。
showcodusage	COD リソースの現在の使用状況に関する統計情報を表示します。
showcomponent	コンポーネントの一覧を表示します。
showdate	日付および時刻を表示します。
showenvironment	現在の環境状態、温度、電流、電圧およびファンの回転速度などを表示します。
showerrorbuffer	エラーバッファの内容を表示します。
showescape	LOM のエスケープ文字を表示します。
showeventreporting	イベントレポートの設定を表示します。
showfault	システム障害 LED の状態を表示します。



表 1 システムコントローラコマンドの概要 (続き)

コマンド	説明
showhostname	ホスト名を表示します。
showlocator	システムロケータ LED の状態を表示します。
showlogs	ログを表示します。
showmodel	プラットフォームモデルを表示します。
shownetwork	LOM のネットワーク設定を表示します。
showresetstate	リセット後の CPU レジスタを表示します。
showsc	システムコントローラの稼働時間およびバージョン情報を表示します。
shutdown	Solaris を停止し、システムをスタンバイモードにします。
ssh-keygen	SSH ホスト鍵の生成と、システムコントローラのホスト鍵の指紋の表示を行います。
testboard	CPU/メモリーボードを単独でテストします。

## FRU 状態およびテスト状態

表 2 および表 3 に、FRU の状態とテストの状態を示します。

表 2 FRU の状態

値	説明
Disabled	FRU はブラックリストに登録されています (RPx のみ)。
Assigned	FRU はシステムに割り当てられています。
Active	FRU はシステムで使用されています。
Auto Speed	ファンは、温度に応じて規定された回転速度で動作しています (FT0 のみ)。
High Speed	ファンは、最高回転速度で動作しています (FT0 のみ)。
Unknown Speed	ファンの回転速度が不明です (FT0 のみ)。
Main	FRU はメインシステムコントローラです (SSC1 のみ)。
Unknown	FRU の状態が不明です。
-	関連する FRU の状態はありません。

表 3 テストの状態

テストの状態	説明
Passed/OK	すべてのボードコンポーネントがテストに合格しました。
Degraded	テストが失敗したか、通常の操作中に障害が発生しています。また、コンポーネントが使用不可になっている可能性もあります。ボードはまだアクセス可能で、ボードに接続された一部の装置は使用可能なままです。
Disabled	FRU はブラックリストに登録されています。
Failed	ボードはテストで不合格でした。
Under Test	システムで電源投入時自己診断 (POST) が実行されています。ボードの状態は、Assigned または Active に切り替わります。
Not Tested	テストが実行されていません。
-	スロットが空いているか、テストが実行されていません。この装置には適合していません。

---

# システムコントローラコマンド一覧 (アルファベット順)

この節では、システムコントローラコマンドについて説明します。

# addcodlicense

COD (Capacity on Demand) ライセンスデータベースに、COD 使用権 (RTU : Right-to-Use) ライセンスキーを追加します。

## 構文

```
addcodlicense license-signature
```

```
addcodlicense -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

<i>license-signature</i>	COD ライセンスデータベースに追加する COD RTU ライセンスキーを指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

指定した COD RTU ライセンスキーを、システムコントローラの COD ライセンスデータベースに追加します。

---

**注** – このコマンドを実行する前に、Sun License Center から COD RTU ライセンスキーを入手する必要があります。COD RTU ライセンスキーの詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』を参照してください。

---

## 関連項目

deletecodlicense、showcodlicense、showcodusage

# bootmode

次の再起動時に Solaris ソフトウェアが OpenBoot™ PROM を使用方法を設定します。

## 構文

```
bootmode normal
```

```
bootmode [diag|skipdiag] [forth] [reset_nvram]
```

```
bootmode -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
normal	次の再起動時に、OpenBoot PROM™ は OpenBoot PROM 変数の verbosity-level および diag-level に指定された値を使用してシステムを起動します。また、以前に要求された bootmode コマンドは、時間切れになるとすべてこの値でクリアされます。
diag	次の再起動時に、OpenBoot PROM は CPU POST の verbosity-level および diag-level が max に設定されている場合と同じように、システムを起動します。この場合、Solaris を起動する前に最高レベルの POST が必ず実行されます。
skipdiag	次の再起動時に、OpenBoot PROM は CPU POST の verbosity-level が min に、diag-level が init に設定されている場合と同じように、システムを起動します。この場合、Solaris を起動する前に最短時間で POST が実行されます。
forth	OpenBoot PROM 変数の auto-boot? が true に設定されていても、次の再起動時に OpenBoot PROM が ok プロンプトを表示して停止します。これによって、起動時に Solaris が自動的に起動されることを防止できません。
reset_nvram	次の再起動時に、OpenBoot PROM は OpenBoot PROM の NVRAM 変数をリセットします。

---

## 説明

次の再起動時に Solaris ソフトウェアが起動する方法を設定します。

bootmode コマンドを実行すると、次の Solaris の再起動時に OpenBoot PROM によって読み取られるフラグが設定されます。10 分以内にシステムが再起動しないと、bootmode の値は normal に戻されます。また、システムがいったん再起動した場合も、bootmode の値は normal に設定されます。bootmode が normal に設定されていると、OpenBoot PROM によって直接 OpenBoot PROM 値の verbosity-level および diag-level が使用され、起動時の POST の動作が制御されます。

## 関連項目

reset、break、OBP の setenv (verbosity-level、diag-level)

## 例

- OpenBoot PROM が skipdiag オプションを使用するように指定する場合は、次のように入力します。

```
lom> bootmode skipdiag
```

# break

Solaris コンソールにブレイク信号を送信します。

## 構文

```
break [-y|-n]
```

```
break -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	確認のプロンプトを表示しません。
-n	確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

Solaris コンソールに 30 ミリ秒のブレイク信号を送信します。

Solaris コンソールは、ブレイク信号の送信後に再開されます。Solaris オペレーティングシステムが動作し、システムがセキュリティー保護モードでない場合、通常、このコマンドを使用すると、強制的に PROM またはデバッグが起動されます。

## 関連項目

console、setupsc

## 例

- 動作している Solaris から OpenBoot PROM へシステムを移行するための break コマンドを使用する場合は、次のように入力します。

```
lom> break

This will suspend Solaris.
Do you want to continue? [no] y
Type 'go' to resume
{0} ok
```

# console

Solaris または OpenBoot PROM コンソールに接続します。

## 構文

```
console
```

```
console -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

Solaris OS または OpenBoot PROM が起動されると、lom> プロンプトを抜けて Solaris または OpenBoot PROM コンソールに接続します。LOM のエスケープシーケンスが入力されるまで、システムはコンソールモードのままです。

---

**注** - console コマンドを実行して **Return** キーを押すと、もう一度 **Return** キーを押すまでプロンプトは表示されません。その時点で、Solaris コンソールに送信された出力が存在する場合は、コマンドが入力された直後に表示されます。

---

## 関連項目

showescape、showescape

## 例

```
lom> console

console login:
```



# deletecodlicense

COD ライセンスデータベースから、COD 使用権 (RTU) ライセンスキーを削除します。

## 構文

```
deletecodlicense [-f] license-signature
```

```
deletecodlicense -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-f	ライセンスの削除によってライセンス違反が発生する場合でも、指定した COD RTU ライセンスキーを COD ライセンスデータベースから強制的に削除します。
<i>license-signature</i>	COD ライセンスデータベースから削除する COD RTU ライセンスキーを指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムコントローラの COD ライセンスデータベースから、COD RTU ライセンスキーを削除します。COD RTU ライセンスキーの詳細は、『Sun Fire エントリーレベル ミッドレンジシステム管理マニュアル』を参照してください。

システムは、ライセンスの数と、使用している COD CPU の数を照合します。ライセンスの削除によって、使用している COD CPU に対する COD RTU ライセンスの数が足りなくなる場合には、ライセンスキーは COD ライセンスデータベースから削除されません。COD RTU ライセンスキーを削除するには、使用する COD CPU の数を減らす必要があります。ドメインの電源を切断し、適切な数のボードを使用不可にして、ふたたび電源を入れるか、動的再構成 (DR) を使用して適切な数のボードを切り離してください。

## 関連項目

addcodlicense、showcodlicense、showcodusage

## 例

コード例 1      deletecodlicense コマンドの例

```
lom> deletecodlicense 01:80d8a9ed:45135285:0201000000:8:00000000:000000000000000000000000
```

---

注 – 上記の COD RTU ライセンスキーは一例で、有効なライセンスキーではありません。

---

## disablecomponent

disablecomponent コマンドは、リリース 5.17.0 以降は使用しないでください。このコマンドの代わりに setls コマンドを使用できます。disablecomponent コマンドは現在も使用できますが、setls コマンドを使用することをお勧めします。詳細は、setls コマンドの説明を参照してください。

### 関連項目

setls

# enablecomponent

enablecomponent コマンドは、リリース 5.17.0 以降は使用しないでください。このコマンドの代わりに setls コマンドを使用できます。enablecomponent コマンドは現在も使用できますが、setls コマンドを使用することをお勧めします。詳細は、setls コマンドの説明を参照してください。

## 関連項目

setls

# flashupdate

システムコントローラ、すべてのシステムボード、または指定したボード番号のフラッシュ PROM を更新します。

## 構文

```
flashupdate [-y|-n] -f URL all
flashupdate [-y|-n] -f URL systemboards|rtos|scapp|board ...
flashupdate [-y|-n] -u
flashupdate [-y|-n] -c source-board destination-board
flashupdate -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	確認のプロンプトを表示しません。
-n	確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
-f	フラッシュイメージのソースの URL を指定します。 URL は、フラッシュイメージを含むディレクトリを示す URL です。サポートされるプロトコルは、次のとおりです。 ftp://[userid:password@]hostname/path http://hostname/path
-c	フラッシュイメージのソースになるボードを指定します。
-u	ボードを現在のファームウェアのバージョンにアップグレードします。
all	システムコントローラおよびすべてのシステムボードが対象になります。
rtos	システムコントローラのリアルタイムオペレーティングシステムが対象になります。このオプションを指定すると、システムコントローラの再起動が必要になります。
scapp	システムコントローラが対象になります。このオプションを指定すると、システムコントローラの再起動が必要になります。
systemboards	すべての CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリ (SB0、SB2、SB4、および IB6) が対象になります。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

システムコントローラをフラッシュ更新すると、コマンドによって次のメッセージが表示されます。

```
As part of this update, the system controller will automatically reboot.
```

```
ScApp will be upgraded automatically during the next boot.
```

```
Rebooting will interrupt any current operations.
```

```
This includes keyswitch changes, Solaris reboots  
and all current connections.
```

```
Do you want to continue? [no]
```

---

**注** - flashupdate では、パスワードでセキュリティー保護された HTTP URL からフラッシュイメージを取り出すことはできません。ファイルが存在する場合でも、「flashupdate: failed, URL does not contain required file: *file*」というメッセージが返されます。

---

## 説明

システムコントローラ、すべてのシステムボード、または指定したボード番号のフラッシュ PROM を更新します。

フラッシュ PROM は、CPU/メモリーボード、I/O アセンブリ、およびシステムコントローラボード上にあります。リピータボードにはフラッシュ PROM はありません。

## 関連項目

『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』(ファームウェアを更新する手順)

## 例

- 指定した I/O アセンブリのフラッシュ PROM を更新する場合は、次のように入力します。

### コード例 2 I/O アセンブリのフラッシュ PROM を更新するための flashupdate コマンド

```
lom> flashupdate -f ftp://host/path ib6
Waiting for critical processes to finish. This may take a while.
Critical processes have finished.

Retrieving: ftp://host/path/lw8pci.flash
Validating ..... Done

Programming PROM /N0/IB6/FP0
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done
```

- CPU/メモリーボード sb0 を更新する場合は、次のように入力します。

```
lom> flashupdate ftp://host/path sb0
Waiting for critical processes to finish. This may take a while.
Critical processes have finished.

Retrieving: ftp://host/path/lw8cpu.flash
Validating ..... Done

Programming PROM /N0/SB0/FP0
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done

Programming PROM /N0/SB0/FP1
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done
lom>
```

- システムコントローラファームウェアを更新する場合は、次のように入力します。

```
lom>flashupdate -f ftp://host/path scapp
```

```
As part of this update, the system controller will automatically reboot.
```

```
ScApp will be upgraded automatically during the next boot.
```

```
Rebooting will interrupt any current operations.
```

```
This includes keyswitch changes, Solaris reboots  
and all current connections.
```

```
Do you want to continue? [no]
```



# help

引数を指定せずに入力すると、使用可能な LOM コマンドがすべて表示されます。引数を指定すると、指定したコマンドの基本的な使用方法と簡略な説明が表示されます。

## 構文

```
help [command-name]
```

```
help [partial-command-name]
```

```
help -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

<i>command-name</i>	LOM のコマンド名を指定します。
<i>partial-command-name</i>	コマンド名の 1 文字以上の一部の文字 (show など) を指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

## 説明

引数を指定せずに help コマンドを実行すると、使用可能な LOM のコマンドがすべて表示されます。引数を指定すると、指定したコマンドの基本的な使用方法と簡略な説明が表示されます。

## 例

- setlocator コマンドのヘルプ情報を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> help setlocator

setlocator -- set the system locator led

Usage: setlocator on|off
       setlocator -h

-h -- display this help message

lom>
```

- `show` で始まるすべてのコマンドを表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> help show
```

- `b` で始まるすべてのコマンドを表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> help b
```

# history

コマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。

## 構文

```
history
```

```
history -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

現在の接続でのコマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。

## 例

### コード例 3 history コマンド

```
lom> history
Nov 26 14:34:37 : showalarm 1
Nov 26 14:34:40 : showalarm 2
Nov 26 14:34:45 : showalarm system
Nov 26 14:40:01 : showeventreporting
Nov 26 15:06:00 : showfault
Nov 26 15:53:05 : shownetwork
Nov 26 16:15:32 : help setlocator
Nov 26 16:17:32 : history
```

# inventory

FRU の SEEPROM の内容を表示します。

## 構文

```
inventory
```

```
inventory [board]
```

```
inventory -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

<i>board</i>	FRU の名前を指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

FRU の SEEPROM の内容を表示します。

## 例

- すべての FRU の SEEPROM を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> inventory
```

- 特定の FRU (電源装置) を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>inventory PS1  
/NO/PS1: PS: 300-1523-01-02 serial# E00254 "Power Supply (A166,V1280)"  
  Made on Fri Nov 30 11:47:41 PST 2001 by 03ad at DELTAELECTRONICS CHUNGLI  
TAIWAN  
  Powered on for 87 days 12 hours 1 minute
```

# logout

接続からログアウトします。

## 構文

```
logout
```

```
logout -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

システムコンソールまたは LOM プロンプトに論理的に接続できるのは、一度に 1 人のユーザーだけです。システムコントローラのネットワークポートを介して接続を確立する場合は、まず、シリアルポート接続からログアウトして接続を使用可能にする必要があります。ネットワークポートにログインしている場合にシリアルポートに接続するときは、同じようにログアウトしてから接続します。

---

**注** – シリアルポートからログアウトしたあとでシリアルポートで文字を入力すると、再接続が試行されたと解釈されます。

---

## 例

```
lom> logout
```

# password

LOM のパスワードを設定します。

## 構文

```
password
```

```
password -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

共用する LOM/コンソールポートへの接続の確立や、パスワードで保護するその他の処理に対して、パスワードを設定します。パスワードの変更が許可される前に、現在のパスワードの認証が行われます。変更されたパスワードは、即時に有効になります。それ以降は、古いパスワードは受け入れられません。

Enter new password および Enter new password again のプロンプトで **Return** キーを押すと、パスワードを削除できます。

パスワードを忘れた場合は、ご購入先に問い合わせてください。

## 関連項目

- setupsc
- reset
- break
- 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』

## 例

LOM シェルで password コマンドを入力すると、次のように表示されます。

コード例 4 password コマンド

```
lom> password
Enter current password:
Enter new password:
Enter new password again:
lom>
```

# poweroff

システム全体、あるいは1つまたは一連のFRUの電源を強制的に切って、スタンバイ状態にします。

## 構文

```
poweroff
```

```
poweroff [-y|-n]
```

```
poweroff [-y|-n] fru-name [fru-name...]
```

```
poweroff -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	すべての質問に yes と応答します。このオプションは、危険を伴います。-y オプションを指定すると、コンポーネントの電源を強制的に切ることができます。
-n	すべての質問に no と応答します。-n オプションを指定すると、コンポーネントの電源を強制的に切ることはできません。
fru-name	個々のFRUの名前を指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

`poweroff fru-name` では、1つまたは一連のFRUの電源が切断されます。指定できるFRUは、次のとおりです。

- 電源装置 (psx)
- システムボード (sbx、ibx、rpx)
- ファントレー (ft0)

引数を明示的に指定せずに `poweroff` コマンドを使用すると、FRUの電源が切断される前に Solaris システムが終了します。各ボードの電源の状態は、`showboards` コマンドの出力に表示されます。

---

**注** – 通常の状態では、`shutdown` コマンドを使用してください。

---

## 関連項目

`poweron`、`shutdown`

## 例

- CPU/メモリーボード sb2 の電源を切る場合は、次のように入力します。

```
lom> poweroff sb2
```

- システム全体を終了して電源を切る場合は、次のように入力します。

```
lom> poweroff
```



## poweron

システム全体、あるいは 1 つまたは一連の FRU の電源を入れます。

### 構文

```
poweron
```

```
poweron [all|fru-name [fru-name...]]
```

```
poweron -h
```

### オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	確認のプロンプトを表示しません。
-n	確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
<i>fru-name</i>	1 つまたは一連の FRU の電源を入れます。
all	すべての FRU の電源を入れますが、Solaris は起動しません。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

### 説明

スタンバイ状態からシステムに電源を投入して Solaris を起動する場合は、通常、引数を指定せずに poweron コマンドを実行します。

poweron *fru-name* では、1 つまたは一連の FRU の電源が投入されます。指定できる FRU は、次のとおりです。

- 電源装置 (psx)
- システムボード (sbx、ibx、rpx)
- ファントレー (ft0)

---

**注** - poweron all を使用すると、Solaris OS を起動せずにすべての FRU の電源が投入されます。各ボードの電源の状態は、showboards コマンドの出力に表示されます。

---

### 関連項目

shutdown、showboards、poweroff

## 例

- システム全体の電源を入れて起動する場合は、次のように入力します。

```
lom> poweron
```

- CPU/メモリーボード sb2 の電源を入れる場合は、次のように入力します。

```
lom>poweron sb2
```

# reset

Solaris システムをリセットします。

## 構文

```
reset [-x|-a] [-y|-n]
```

```
reset -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	確認のプロンプトを表示しません。
-n	確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
-x	外部強制リセット (XIR : eXternally Initiated Reset) を介して reset のデフォルトの動作を強制的に実行します。
-a	すべてのハードウェアをリセットします。XIR のデータ収集はスキップされ、デバッグに使用できるデータが失われます。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

**注** - オプションを指定せずに reset コマンドを入力した場合は、reset -x と同じ処理が行われます。

---

## 説明

Solaris システムをリセットします。システムがセキュリティー保護モードであるか、電源が切断されスタンバイモードになっている場合、リセットは許可されません。リセットが完了すると、Solaris システムが再開されます。

デフォルトでは、reset を実行すると、XIR を使用して Solaris システムの CPU プロセッサがリセットされます。XIR によって、Solaris システムの制御が強制的に OpenBoot PROM に移り、OpenBoot PROM のエラーリセット回復処理が開始されます。エラーリセット回復処理では、Solaris オペレーティングシステムのコアファイルなどの、ハードウェアおよびソフトウェアのデバッグに必要なデータを収集できるように、ほとんどの Solaris システムの状態が保持されます。OpenBoot PROM のエラーリセット回復処理は、OpenBoot PROM の構成変数 error-reset-recovery の設定によって制御できます。

reset コマンドを入力して、そのあとも Solaris オペレーティングシステムにログインできず、また break コマンドを入力しても Solaris システムの制御を OpenBoot PROM の ok プロンプトに強制的に戻すことができない場合は、次に reset -a を入力してすべてをリセットする必要があります。

reset -a コマンドは、OpenBoot PROM の reset-all コマンドと同じ処理を実行します。

## 関連項目

- setupsc
- 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』 (Solaris システムをハングアップまたはハードハングから回復する手順)

## 例

- Solaris システムをリセットする場合は、次のように入力します。

```
lom> reset
```

- システム全体をリセットする場合は、次のように入力します (XIR のデータ収集はスキップされ、デバッグに使用できるデータが失われます)。

```
lom> reset -a
```

---

**注** - reset (オプションの指定なし) コマンドの実行が失敗し、そのあとも Solaris オペレーティングシステムにログインできず、また break コマンドを入力しても Solaris システムの制御を OpenBoot PROM の ok プロンプトに強制的に戻すことができない場合は、reset -a を入力する必要があります。

---

## resetsc

システムコントローラをリセットします。

### 構文

```
resetsc [-y|-n]
```

```
resetsc -h
```

### オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	確認のプロンプトを表示しません。
-n	確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

### 説明

システムコントローラをリセットします。システムコントローラのログ履歴は失われます。

---

**注** – 起動や停止など、システム全体に関する操作が実行されている間は、このコマンドを使用しないでください。

---

### 関連項目

flashupdate

### 例

**コード例 5** システムコントローラをリセットするための `resetsc` コマンド

```
lom>resetsc -y
Are you sure you want to reboot the system controller now? yes (-y)
Waiting for critical processes to finish. This may take a while.
Critical processes have finished.

Rebooting. All telnet connections closed. Reestablish any needed connections.
Fri Dec 12 08:51:25 commando lom: Stopping all services on this SC
Fri Dec 12 08:51:25 commando lom: All services on this SC have been stopped.

Software Reset...
```

コード例 5 システムコントローラをリセットするための resetsc コマンド (続き)

```
@(#) SYSTEM CONTROLLER(SC) POST 38 2003/11/18 21:21
PSR = 0x044010e5
PCR = 0x04004000

    Memory size = 128MB

Basic sanity checks done.
Skipping POST ...
ERI Device Present
Getting MAC address for SSC1
Using SCC MAC address
MAC address is 0:3:ba:19:8b:92
Hostname: commando
Address: 129.xxx.xxx.xxx
Netmask: 255.255.255.0
Attached TCP/IP interface to eri unit 0
Attaching interface lo0...done
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx
interrupt: 100 Mbps full duplex link up

    Copyright 2001-2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
    Use is subject to license terms.

Sun Fire System Firmware
RTOS version: 38
ScApp version: 5.17.0 Build_02
SC POST diag level: off

The date is Friday, December 12, 2003, 8:52:42 AM PST.

Fri Dec 12 08:52:43 commando lom: Boot: ScApp 5.17.0, RTOS 38
Fri Dec 12 08:52:45 commando lom: SBBC Reset Reason(s): Peer Reset, Watchdog
Reset
Fri Dec 12 08:52:51 commando lom: Caching ID information
Fri Dec 12 08:52:52 commando lom: Clock Source: 75MHz
Fri Dec 12 08:52:57 commando lom: /N0/PS0: Status is OK
Fri Dec 12 08:52:58 commando lom: /N0/PS1: Status is OK
Fri Dec 12 08:52:58 commando lom: /N0/PS2: Status is OK
Fri Dec 12 08:52:59 commando lom: /N0/PS3: Status is OK
Fri Dec 12 08:52:59 commando lom: Chassis is in single partition mode.
Connected.
```

# restartssh

SSH サーバーを再起動します。

## 構文

```
restartssh [-h]
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-y	情報メッセージに yes と応答します。これを指定した場合は、確認のプロンプトを表示しません。
-n	情報メッセージに no と応答します。これを指定した場合は、確認が必要な場合にはコマンドを実行しません。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

このコマンドを実行するには、`setupnetwork` コマンドを使用して SSH を使用可能にする必要があります。

`ssh-keygen` を使用して新しいホスト鍵を生成した場合は、新しいホスト鍵が有効になる前に SSH サーバーを再起動する必要があります。サーバーを再起動すると、鍵はメモリーに読み込まれ、SSH サーバー専用のメモリー構造に格納されます。

SSH サーバーを再起動するときには、すべての SSH 接続を切断します。このコマンドを実行すると情報メッセージが送信され、実際に SSH サーバーを再起動する前に確認が要求されます。`-y` または `-n` スイッチを指定すると、確認を省略できます。

SSH 接続を介してコマンドを実行した場合、SSH サーバーを再起動すると接続が切断されます。この処理には数秒しかかからないため、ただちに SSH 接続を再確立できます。

## 関連項目

`ssh-keygen`

# setalarm

システムアラームリレーおよび関連する LED を設定します。

## 構文

```
setalarm 1|2|3 on|off
```

```
setalarm -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

1	アラーム番号 1 を指定します。
2	アラーム番号 2 を指定します。
3	アラーム番号 3 を指定します。
on	指定されたアラームリレーをオンにして LED を点灯します。
off	指定されたアラームリレーをオフにして LED を消灯します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムアラームリレーおよび関連する LED を設定します。システムアラーム、UNIX 実行中 LED、およびアラーム 3 の詳細は、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』の付録 A を参照してください。

## 関連項目

showalarm

## 例

```
lom> setalarm 1 on
```

```
lom> setalarm 2 off
```



# setdate

システムの日付および時刻を設定します。

## 構文

```
setdate [-v] [-t time-zone] [mmdd]HHMM  
setdate [-v] [-t time-zone] mmddHHMM[[cc]yy][.SS]  
setdate [-v] -r datehost  
setdate [-v] -t GMT <+|-> offset-from-GMT  
setdate -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-v	冗長モードになります。
-t <i>time-zone</i>	タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンを設定します。
-t GMT<+ -> <i>offset-from-GMT</i>	グリニッジ標準時 (GMT) に指定したオフセットを加えた時間を設定します。
<i>mm</i>	月
<i>dd</i>	日付
<i>HH</i>	分 (24 時間式)
<i>MM</i>	分
<i>cc</i>	西暦の最初の 2 桁
<i>yy</i>	西暦の下 2 桁
<i>SS</i>	秒
-r <i>datehost</i>	日付ホスト ( <i>datehost</i> ) の現在の値に基づいた日付を設定します。日付ホストは、有効なシステムである必要があります。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

**注** - すべてのタイムゾーンを一覧表示するには、`showdate -t -v` を入力します。

---

## 説明

日付および時刻を設定します。

---

**注** – タイムゾーン地域で夏時間が使用されている場合は、日付および時間は自動的に設定されます。

---

---

**注** – Solaris が動作している場合は、Solaris の `date(1)` コマンドを使用します。

---

## 関連項目

`showdate`

## 例

- 日付および時間を 2000 年 4 月 20 日木曜日、18 時 15 分 10 秒に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setdate 042018152000.10
```

- 日付ホストシステムから日付を設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setdate -r hostname  
Mon Apr 03 09:30:58 PST 2000
```

- 日付および時刻を 2000 年 4 月 20 日木曜日、18 時 15 分 10 秒に設定し、タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンを米国東部標準時 (EST) に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setdate -t EST 042018152000.10
```

- タイムゾーンをイギリスに設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setdate -t Europe/London
```

- タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンをヨーロッパ中央時間に設定し、日付および時刻を設定しない場合は、次のように入力します。

```
lom> setdate -t ECT
```

## setescape

Solaris または OpenBoot PROM コンソールから LOM プロンプトへ移行するために使用する文字シーケンスを設定します。

### 構文

```
setescape escapechars
```

```
setescape -h
```

### オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

<i>escapechars</i>	エスケープシーケンスとして最大 5 文字の英数字を指定できます。LOM が最初に起動されたときのデフォルトのシーケンスは、「#.」(ハッシュ記号とピリオド) です。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

### 説明

Solaris または OpenBoot PROM コンソールから LOM プロンプトへ移行するために使用する文字シーケンスを設定します。

コンソールからエスケープシーケンスの先頭文字 (デフォルトでは #) を入力すると、画面にその文字が表示されるまでに 1 秒の遅延があります。これは、エスケープシーケンスの次の文字が入力されるかどうかを確認するために、システムが 1 秒間待ち状態になるためです。次の文字が入力されると、システムはさらにその次の文字が入力されるまで 1 秒の待ち状態になります。エスケープシーケンスのすべての文字が入力されると、lom> プロンプトが表示されます。エスケープシーケンスのすべての文字が入力されなかった場合は、それまでに入力されたエスケープシーケンスに属する文字が画面に出力されます。

コンソールで頻繁に使用される文字で始まるエスケープシーケンスを選択しないでください。このような文字を選択すると、キーを押してから文字が表示されるまでの遅延によって混乱が生じ、文字の入力に影響する場合があります。

### 関連項目

showescape

## 例

- エスケープ文字を「#.」に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setescape "#."
```

---

**注** - # が LOM コマンドシェルのコメント用の文字であるため、このシーケンスは引用符で囲む必要があります。

---

- エスケープ文字を「~~~..」に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> setescape ~~~..
```

# seteventreporting

seteventreporting コマンドは、LOM プロンプトに出力されるメッセージおよび Solaris に送信されるログメッセージのレベルを制御します。

## 構文

```
seteventreporting on [0|1|2|3|4]
seteventreporting off [0|1|2|3|4]
seteventreporting default [0|1|2|3|4]
seteventreporting -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

default	Solaris が動作していないときにかぎり、LOM ソフトウェアは lom> プロンプトにメッセージを出力します。Solaris ソフトウェアは、システムログデーモン syslogd の構成ファイル /etc/syslog.conf での設定に従って、LOM からのメッセージを出力します。
on	現在設定されているレポートレベル以下のすべてのメッセージを lom> プロンプトに表示します。
off	lom> プロンプトにメッセージを報告しません。現在設定されているレポートレベル以下のメッセージは、継続して Solaris へ送信されます。

---

レポートレベルは、次のとおりです。

---

0	エラーメッセージは報告されません。
1	致命的なメッセージだけが報告されます。
2	致命的、警告のメッセージが報告されます。
3	致命的、警告、通知のメッセージが報告されます。
4	現在、このレベルのメッセージはありません (レベル 3 と同じ結果になります)。

---

**注** - レベルを指定しない場合、デフォルトのレポートレベルは 3 です。

---

-h このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

`seteventreporting` コマンドは、LOM プロンプトに出力されるメッセージおよび Solaris に送信されるログメッセージのレベルを制御します。レポートレベルは、動作中の Solaris が受信するメッセージ、または Solaris が次に起動したときに取得するメッセージのレベルを制御します。このコマンドでの設定にかかわらず、すべてのメッセージは、システムコントローラの内部ログに送信されます。このログは、`showlogs` コマンドを使用して表示できます。

## 関連項目

`showeventreporting`

## 例

- LOM プロンプトへのイベントの報告を停止する場合は、次のように入力します。

```
lom> seteventreporting off
```

- LOM プロンプトでのメッセージ処理をデフォルトに設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> seteventreporting default
```

- 致命的メッセージおよび警告メッセージをすべて LOM プロンプトに報告するように設定する場合は、次のように入力します。

```
lom> seteventreporting on 2
```

# setlocator

システムロケータ LED の状態を設定します。

## 構文

```
setlocator on|off
```

```
setlocator -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

on	システムロケータ LED を点灯します。
off	システムロケータ LED を消灯します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムロケータ LED の状態を設定します。

## 関連項目

showlocator

## 例

システムロケータ LED を消灯する場合は、次のように入力します。

```
lom> setlocator off
```

システムロケータ LED を点灯する場合は、次のように入力します。

```
lom> setlocator on
```



# setls

コンポーネント位置の状態を設定します。

## 適用範囲

シェル

## 構文

```
setls -s new-status -l location
```

```
setls -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-s <i>new-status</i>	コンポーネント位置の状態を設定します。 enable — 指定したコンポーネント位置が使用可能になります。 disable — 指定したコンポーネント位置が使用不可になります。
-l <i>location</i>	コンポーネント位置を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <i>slot/port/physical-bank/logical-bank</i> (CPU/メモリーボード)</li><li>• <i>slot/port/bus</i> (I/O アセンブリ)</li><li>• <i>slot/card</i> (I/O アセンブリ)</li></ul>
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

特定の位置にあるコンポーネントをシステムに構成するかどうかを制御します。コンポーネント位置の状態は、次のいずれかに設定できます。

- **Enabled** – 指定した位置にあるコンポーネントは、コンポーネントの健全性状態 (Component Health Status : CHS) に応じてシステムに構成されます。コンポーネントの健全性状態の詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』を参照してください。

setls コマンドによって使用不可のコンポーネントを使用可能に戻すことができない場合があります。showcomponent コマンドの出力で、POST 状態の欄に chs と表示されている使用不可のコンポーネントは、システムに構成することができません。このような場合は、ご購入先に保守作業を依頼してください。

- **Disabled** – 指定した位置にあるコンポーネントは、システムに構成されません。

---

**注** – コンポーネント位置の状態は、次回の再起動時、ボードの電源の再投入時、または POST の実行時に更新されます。たとえば、`setkeyswitch on` または `off` の操作を行うと、自動的に POST が実行されます。

---

コンポーネント位置を使用不可にすると、そのサブコンポーネントの位置も使用不可になります。たとえば、CPU スロットの位置を使用不可にすると、その CPU が制御しているメモリーの位置も自動的に使用不可になります。

同様に、コンポーネント位置を使用可能にすると、サブコンポーネント位置も使用可能になりますが、それは `setls` コマンドを使用してサブコンポーネント位置を個別に使用不可に設定していない場合にかぎりです。親コンポーネントの位置を指定するだけでは、サブコンポーネント位置を自動的に使用可能にすることはできません。各サブコンポーネント位置は、`setls` コマンドを使用して個別に使用可能にする必要があります。

コンポーネント位置は、次のとおりです (表 4 および表 5 を参照)。

- ポート (CPU/メモリーボード上の CPU、および I/O アセンブリ上の I/O コントローラ)
- 物理および論理メモリーバンク
- I/O バス
- I/O カード

**表 4** CPU/メモリーボードの位置の説明

ボードまたは装置	コンポーネント位置
CPU/メモリーボードのスロット	SB0、SB1、SB2、SB3、SB4、SB5
CPU/メモリーボード上のポート	P0、P1、P2、P3
CPU/メモリーボード上の物理メモリーバンク	B0、B1
CPU/メモリーボード上の論理バンク	L0、L1、L2、L3

**表 5** I/O アセンブリの位置の説明

ボードまたは装置	コンポーネント位置
I/O アセンブリのスロット	IB6、IB7、IB8、IB9
I/O アセンブリ上のポート	P0、P1
I/O アセンブリ上のバス	B0、B1
I/O アセンブリ上の I/O カード	C0、C1、C2、C3、C4、C5、C6、C7 (カードの数は I/O アセンブリによって異なります。)

---

**注** – I/O アセンブリのポートの位置を使用不可にする場合は、ドメイン内で1つ以上の I/O コントローラ 0 を使用可能にして、ドメインがシステムコントローラと通信できるようにしてください。

---

## 関連項目

showcomponent、『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』

## 例

- コード例 6 に、スロット sb4 にあるコンポーネントを使用可能にする例を示します。スロット sb4 にある CPU/メモリーボードは、コンポーネントの健全性状態に応じてシステムに構成されます。状態の変更は、次の再起動時、ボードの電源の再投入時、または POST の実行時に行われます。

**コード例 6**      スロット sb4 の CPU/メモリーボードの位置を使用可能にする setls コマンドの例

```
lom> setls -s enable -l sb4
```

- コード例 7 に、スロット ib6 のポート 1 にある I/O アセンブリを使用可能にする例を示します。I/O アセンブリ 6 のポート 1 は、コンポーネントの健全性状態に応じてシステムに構成されます。状態の変更は、次の再起動時、ボードの電源の再投入時、または POST の実行時に行われます。

**コード例 7**      スロット ib6 の I/O アセンブリの位置を使用可能にする setls コマンドの例

```
lom> setls -s enable -l ib6/p1
```

- コード例 8 に、スロット sb0 の CPU ポート 3 にあるコンポーネントを使用不可にする例を示します。スロット sb0 にある CPU/メモリーボードは、次の再起動時、ボードの電源の再投入時、または POST の実行時にシステムから構成解除されます。また、この CPU ポート上のメモリーバンクにもアクセスできなくなるので、メモリーバンクは暗黙的に使用不可になります。

**コード例 8**      スロット sb0 および CPU ポート 3 の CPU/メモリーボードの位置を使用不可にする setls コマンドの例

```
lom> setls -s disable -l sb0/p3
```

- コード例 9 に、スロット sb4 にあるコンポーネントを使用不可にする例を示します。スロット sb4 にある CPU/メモリーボードは、次回の再起動時、ボードの電源の再投入時、または POST の実行時に構成解除されます。

**コード例 9**      スロット sb4 の CPU/メモリーボードの位置を使用不可にする `setls` コマンドの例

```
lom> setls -s disable -l sb4
```

# setupnetwork

システムコントローラのネットワーク属性を設定します。

## 構文

```
setupnetwork
```

```
setupnetwork -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

システムコントローラネットワークの詳細情報を設定すると、ネットワーク接続を介してシステムコントローラにアクセスできるようになります。これらの属性を設定したら、システムコントローラをリセットして、設定を有効にしてください。

表 6 setupnetwork の属性

---

パラメータ	値
Is the system controller on a network?	ネットワーク接続を介してシステムコントローラにアクセスする場合は、このオプションを <code>yes</code> に設定する必要があります。
Use DHCP or static network settings?	<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>static</code> – システムコントローラの電源を入れたときのネットワーク IP およびホスト名は毎回同じになります。</li><li>• <code>DHCP</code> – <code>DHCP</code> と呼ばれるネットワークサービスを使用して、ホスト名および IP アドレスが自動的に取得されます。</li></ul>
Hostname	システムコントローラの間にとってわかりやすいネットワーク識別情報。
IP Address	システムコントローラが使用する IP アドレス。
Netmask	ネットワークをサブネットワークに分割するために予約するアドレスの数を指定します。マスクには、ローカルアドレスのネットワーク部とサブネットワーク部が含まれます。 マスクのサブネットワーク部のビット位置には 1、ホスト部のビット位置には 0 を設定します。
Gateway	IP アドレスは、ルーター検出機構を使用してネットワークから取得する必要があります。

---

表 6 setupnetwork の属性

パラメータ	値
DNS Domain	ドメイン名 (例 : XXX.XXX.com) デフォルト値はありません。この情報は、必ず指定する必要があります。
Primary DNS Server	プライマリ DNS サーバーの IP アドレス。デフォルト値はありません。
Secondary DNS Server	セカンダリ DNS サーバーの IP アドレス。 デフォルト値はありません。プライマリ DNS サーバーが動作していない場合、セカンダリ DNS サーバーが自動的に処理を引き継ぎます。
Connection type	SC へのネットワーク接続形式。デフォルト値は、none (ネットワーク接続なし) です。遠隔接続を使用したシステム管理を可能にするには、ssh または telnet を設定します。

### 関連項目

shownetwork、resetsc

### 例

```
lom> setupnetwork

Network Configuration
-----
Is the system controller on a network? [no]: yes
Use DHCP or static network settings? [DHCP]: static
Hostname []: somename
IP Address []: 129.xxx.xxx.xxx
Netmask [255.255.255.0]: 255.255.255.0
Gateway []: 129.xxx.xxx.xxx
DNS Domain []: somewhere.nowhere.com
Primary DNS Server []: 129.xxx.xxx.xxx
Secondary DNS Server []: 129.xxx.xxx.xxx
Connection type (ssh, telnet, none) [none]: ssh

Rebooting the SC is required for changes in network settings to take effect.
lom>
```

# setupsc

システムコントローラのオプションの機能を設定します。

## 構文

```
setupsc
```

```
setupsc -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

システムコントローラのいくつかのオプション機能を設定できます。

### ■ SC POST 診断レベル:

システムコントローラがリセットまたは電源が投入されたときに実行される電源投入時自己診断の診断レベルを制御します。

- off – SC POST を実行しません。
- min – 最低レベルの SC POST を実行します (デフォルト)。
- max – 最高レベルの SC POST を実行します。

### ■ ホストウォッチドッグ:

Solaris ウォッチドッグがタイムアウトしたときに、システムのリセットを有効にするか無効にするかを設定します。

### ■ ログリセットデータ:

ホストウォッチドッグが使用可能に設定されている場合に、このオプションを使用可能にすると、システムのハングアップ中、システムコントローラはシステムをリセットする前に各 CPU の現在の状態に関するデータをコンソールに送信します。これにより、コンソールデータが記録されている場合には、システムの状態データが保持されます。出力形式は、ハングアップしたシステムの CPU の状態データを手動でダンプする場合 (つまり、ホストウォッチドッグが使用不可能になっている場合) に showresetstate コマンドで使用される形式と同じです。

### ■ 冗長リセットデータ:

ログリセットデータが使用可能に設定されている場合に、システムコントローラがリセット中にコンソールに送信する情報量を制御します。このオプションを使用可能にすると、showresetstate -v コマンドを使用した場合と同じ結果が生成されます。

### ■ ロッカースイッチ:

フロントパネルのオン/スタンバイロックースイッチを使用可能または使用不可に設定します。

■ セキュリティー保護モード：

reset および break コマンドを使用可能または使用不可に設定します。セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合は、reset および break コマンドは使用できません。システムコントローラのパスワードが設定されている場合は、セキュリティー保護モードの設定を変更すると、パスワードを確認するためのプロンプトが表示されます。

■ Capacity on Demand (COD) (headroom)：

現在インストールされているインスタントアクセス COD 使用権 (RTU) ライセンスの数を設定できます。

また、COD *headroom* の数 (一時的に使用する、ライセンスのない追加の COD CPU の数) も設定できます。丸括弧内に使用可能にできるインスタントアクセス CPU の最大数 (4) が表示されます。

0 を指定すると、現在使用中のインスタントアクセス CPU がいない場合にのみ、インスタントアクセス CPU が使用不可になります。

角括弧内に現在使用可能になっているインスタントアクセス CPU の数が表示されます。

■ 修正可能なメモリーエラーの容認:

true に設定すると、Solaris オペレーティングシステムは、修正可能な ECC エラーを示しているメモリーを使用して起動できます。

Solaris 10 オペレーティングシステムには、このようなメモリーモジュールの障害部分を自動的に分離する機能が組み込まれているため、これらのモジュールを完全に使用不可にする必要がなく、システムの可用性が向上します。このオプションを設定すると、POST の完了に要する時間が長くなる可能性があります。

false に設定すると、修正可能な ECC エラーを示しているメモリーモジュールは POST で使用不可となり、Solaris ドメインに参加できません。

■ メモリーページリタイアメントの使用可能への切り替え:

使用しているバージョンの Solaris オペレーティングシステムでメモリーページリタイアメントがサポートされている場合に、このオプションを true に設定すると、POST によって修正可能なエラーに関する統計情報が収集されて、しきい値に達しているかどうか判断され、ドメインから 1 つのメモリーバンク (4 つの DIMM) を削除するように要求されます。前述の修正可能なメモリーエラーの容認オプションでは、すべての修正可能なメモリーエラーが無視されます。

修正可能なメモリーエラーの容認およびメモリーページリタイアメントの使用可能への切り替えの両方のオプションが設定された場合は、修正可能なメモリーエラーの容認が優先されます。

## 関連項目

break、reset、password



## 例

- 現在の設定を保持する場合は、各フィールドのプロンプトで **Return** キーを押します。

```
lom> setupsc

System Controller Configuration
-----
SC POST diag Level [off]:
Host Watchdog [enabled]:
Rocker Switch [enabled]:
Secure Mode [off]:

PROC RTUs installed: 0
PROC Headroom Quantity (0 to disable, 4 MAX) [0]:
Tolerate correctable memory errors [false]:
Enable Memory Page Retirement [false]:

lom>
```

- セキュリティー保護モードの設定を変更する場合は、パスワードを入力する必要があります。

```
lom> setupsc

System Controller Configuration
-----
SC POST diag Level [off]: min
Host Watchdog [enabled]:
Log Reset Data [true]:
Verbose Reset Data [true]:
Rocker Switch [enabled]: disabled
Secure Mode [off]: on
Enter Password:

PROC RTUs installed: 0
PROC Headroom Quantity (0 to disable, 4 MAX) [0]:
Tolerate correctable memory errors [false]:
Enable Memory Page Retirement [false]:

lom>
```

- セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合、**break** コマンドは使用できません。

```
lom> break  
The break command has been disabled using the Secure Mode  
option of the setupsc command.
```

- セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合、reset コマンドは使用できません。

```
lom> reset  
The reset command has been disabled using the Secure Mode  
option of the setupsc command.
```

# showalarm

システムアラームリレーおよび LED の状態を表示します。

## 構文

```
showalarm 1|2|3|system
```

```
showalarm -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

1	アラーム 1 の LED およびリレーの状態を表示します。
2	アラーム 2 の LED およびリレーの状態を表示します。
3	アラーム 3 の LED およびリレーの状態を表示します。
system	UNIX が動作しているシステムのアラームリレーおよび LED の状態を表示します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムアラームリレーおよび LED の状態を表示します。システムアラームおよびアラーム 3 の詳細は、『Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』の付録 A を参照してください。

## 関連項目

setalarm

## 例

- UNIX が動作しているシステムのアラームの状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> showalarm system
system alarm is on
```

- アラーム 1 の状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> showalarm 1  
alarm1 is off
```

- アラーム 2 の状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> showalarm 2  
alarm2 is off
```

- アラーム 3 の状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom> showalarm 3  
alarm3 is off
```

# showboards

システムのすべてのボードの状態を表示します。

## 構文

```
showboards [-ev] [-p part] ...
```

```
showboards -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-e	空きスロットの情報も表示します。
-p	特定の情報を表示します。 <i>part</i> に指定できる値は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• board - ボードの状態が表示されます。</li><li>• cpu - CPU に関する情報が表示されます。</li><li>• io - 入出力に関する情報が表示されます。</li><li>• memory - メモリーに関する情報が表示されます。</li><li>• serial - シリアル番号に関する情報が表示されます。</li><li>• version - バージョン情報が表示されます。</li></ul>
-v	すべての情報を表示します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システム上のすべてのボード (CPU/メモリーボード、I/O アセンブリ、ファントレイなど) の状態を表示します。

## 例

- すべてのボードを表示するには、次のように入力します (showboards -p board と同じ結果になります)。

### コード例 10 showboards コマンド

```
lom>showboards
```

Slot	Pwr	Component	Type	State	Status
SSC1	On	System Controller		Main	Passed
/N0/SCC	-	System Config Card		Assigned	OK
/N0/BP	-	Baseplane		Assigned	OK
/N0/SIB	-	Indicator Board		Assigned	OK
/N0/SPDB	-	System Power Distribution Bd.		Assigned	Passed
/N0/PS0	On	A166 Power Supply		-	OK
/N0/PS1	On	A166 Power Supply		-	OK
/N0/FT0	On	Fan Tray		Auto Speed	OK
/N0/RP0	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/RP2	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/SB0	On	CPU Board		Active	Passed
/N0/IB6	On	PCI I/O Board		Active	Passed
/N0/MB	-	Media Bay		Assigned	OK

- 空きスロットを含むすべてのボードを表示するには、次のように入力します。

### コード例 11 showboards -e コマンド

```
lom>showboards -e
```

Slot	Pwr	Component	Type	State	Status
SSC1	On	System Controller		Main	Passed
/N0/SCC	-	System Config Card		Assigned	OK
/N0/BP	-	Baseplane		Assigned	Passed
/N0/SIB	-	Indicator Board		Assigned	OK
/N0/SPDB	-	System Power Distribution Bd.		Assigned	Passed
/N0/PS0	On	A166 Power Supply		-	OK
/N0/PS1	On	A166 Power Supply		-	OK
PS2	-	Empty Slot		Assigned	-
PS3	-	Empty Slot		Assigned	-
/N0/FT0	On	Fan Tray		Auto Speed	Passed
/N0/RP0	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/RP2	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/SB0	On	CPU Board		Active	Passed
/N0/SB2	On	CPU Board		Active	Passed
SB4	-	Empty Slot		Assigned	-
/N0/IB6	On	PCI I/O Board		Active	Passed
/N0/MB	-	Media Bay		Assigned	OK

- システムのボードに関するすべての情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 12      showboards -v コマンド

```
lom>showboards -v
Slot      Pwr Component Type                State      Status
----      -
SSC1      On   System Controller V2      Main       Passed
/N0/SCC   -   System Config Card        Assigned   OK
/N0/BP    -   Baseplane                  Assigned   Passed
/N0/SIB   -   Indicator Board           Assigned   Passed
/N0/SPDB  -   System Power Distribution Bd. Assigned   Passed
/N0/PS0   On   A166 Power Supply         -          OK
/N0/PS1   On   A166 Power Supply         -          OK
/N0/PS2   On   A166 Power Supply         -          OK
/N0/PS3   On   A166 Power Supply         -          OK
/N0/FT0   On   Fan Tray                   Auto Speed Passed
/N0/RP0   On   Repeater Board            Assigned   OK
/N0/RP2   On   Repeater Board            Assigned   OK
/N0/SB0   On   CPU Board                  Active     Passed
/N0/SB2   On   CPU Board V3              Active     Passed
/N0/SB4   On   CPU Board                  Active     Passed
/N0/IB6   On   PCI I/O Board             Active     Passed
/N0/MB    -   Media Bay                  Assigned   Passed

Component      J-No.   Size   Reason
-----
/N0/SB0/P0/B0/D0 J13300 256 MB
/N0/SB0/P0/B0/D1 J13400 256 MB
/N0/SB0/P0/B0/D2 J13500 256 MB
/N0/SB0/P0/B0/D3 J13600 256 MB
/N0/SB0/P0/B1/D0 J13301 256 MB
/N0/SB0/P0/B1/D1 J13401 256 MB
/N0/SB0/P0/B1/D2 J13501 256 MB
/N0/SB0/P0/B1/D3 J13601 256 MB
/N0/SB0/P1/B0/D0 J14300 256 MB
/N0/SB0/P1/B0/D1 J14400 256 MB
/N0/SB0/P1/B0/D2 J14500 256 MB
/N0/SB0/P1/B0/D3 J14600 256 MB
/N0/SB0/P1/B1/D0 J14301 256 MB
/N0/SB0/P1/B1/D1 J14401 256 MB
/N0/SB0/P1/B1/D2 J14501 256 MB
/N0/SB0/P1/B1/D3 J14601 256 MB
/N0/SB0/P2/B0/D0 J15300 256 MB
/N0/SB0/P2/B0/D1 J15400 256 MB
/N0/SB0/P2/B0/D2 J15500 256 MB
/N0/SB0/P2/B0/D3 J15600 256 MB
```

コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

/N0/SB0/P2/B1/D0	J15301	256 MB	
/N0/SB0/P2/B1/D1	J15401	256 MB	
/N0/SB0/P2/B1/D2	J15501	256 MB	
/N0/SB0/P2/B1/D3	J15601	256 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D0	J16300	256 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D1	J16400	256 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D2	J16500	256 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D3	J16600	256 MB	
/N0/SB0/P3/B1/D0	J16301	256 MB	
/N0/SB0/P3/B1/D1	J16401	256 MB	
/N0/SB0/P3/B1/D2	J16501	256 MB	
/N0/SB0/P3/B1/D3	J16601	256 MB	
/N0/SB2/P0/B0	-	-	DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P0/B1/D0	J13301	512 MB	
/N0/SB2/P0/B1/D1	J13401	512 MB	
/N0/SB2/P0/B1/D2	J13501	512 MB	
/N0/SB2/P0/B1/D3	J13601	512 MB	
/N0/SB2/P1/B0	-	-	DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P1/B1/D0	J14301	512 MB	
/N0/SB2/P1/B1/D1	J14401	512 MB	
/N0/SB2/P1/B1/D2	J14501	512 MB	
/N0/SB2/P1/B1/D3	J14601	512 MB	
/N0/SB2/P2/B0	-	-	DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P2/B1/D0	J15301	512 MB	
/N0/SB2/P2/B1/D1	J15401	512 MB	
/N0/SB2/P2/B1/D2	J15501	512 MB	
/N0/SB2/P2/B1/D3	J15601	512 MB	
/N0/SB2/P3/B0	-	-	DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P3/B1/D0	J16301	512 MB	
/N0/SB2/P3/B1/D1	J16401	512 MB	
/N0/SB2/P3/B1/D2	J16501	512 MB	
/N0/SB2/P3/B1/D3	J16601	512 MB	
/N0/SB4/P0/B0/D0	J13300	256 MB	
/N0/SB4/P0/B0/D1	J13400	256 MB	
/N0/SB4/P0/B0/D2	J13500	256 MB	
/N0/SB4/P0/B0/D3	J13600	256 MB	
/N0/SB4/P0/B1/D0	J13301	256 MB	
/N0/SB4/P0/B1/D1	J13401	256 MB	
/N0/SB4/P0/B1/D2	J13501	256 MB	
/N0/SB4/P0/B1/D3	J13601	256 MB	
/N0/SB4/P1/B0/D0	J14300	256 MB	
/N0/SB4/P1/B0/D1	J14400	256 MB	
/N0/SB4/P1/B0/D2	J14500	256 MB	
/N0/SB4/P1/B0/D3	J14600	256 MB	
/N0/SB4/P1/B1/D0	J14301	256 MB	
/N0/SB4/P1/B1/D1	J14401	256 MB	
/N0/SB4/P1/B1/D2	J14501	256 MB	



コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

```

/N0/SB4/P1/B1/D3 J14601 256 MB
/N0/SB4/P2/B0/D0 J15300 256 MB
/N0/SB4/P2/B0/D1 J15400 256 MB
/N0/SB4/P2/B0/D2 J15500 256 MB
/N0/SB4/P2/B0/D3 J15600 256 MB
/N0/SB4/P2/B1/D0 J15301 256 MB
/N0/SB4/P2/B1/D1 J15401 256 MB
/N0/SB4/P2/B1/D2 J15501 256 MB
/N0/SB4/P2/B1/D3 J15601 256 MB
/N0/SB4/P3/B0/D0 J16300 256 MB
/N0/SB4/P3/B0/D1 J16400 256 MB
/N0/SB4/P3/B0/D2 J16500 256 MB
/N0/SB4/P3/B0/D3 J16600 256 MB
/N0/SB4/P3/B1/D0 J16301 256 MB
/N0/SB4/P3/B1/D1 J16401 256 MB
/N0/SB4/P3/B1/D2 J16501 256 MB
/N0/SB4/P3/B1/D3 J16601 256 MB

```

Component	Segment	Compatible	In	Date	Time	Build	Version
-----	-----	-----	-	----	----	-----	-----
SSC1/FP0	-	-	-	-	-	-	RTOS version: 38
SSC1/FP1	ScApp	Reference	12	01/27/2004	11:42	5.0	5.17.0
SSC1/FP1	Ver	-	-	01/27/2004	11:42	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/IB6/FP0	iPOST	Yes	12	01/27/2004	11:41	5.0	5.17.0
/N0/IB6/FP0	Ver	-	-	01/27/2004	11:41	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/IB6/FP0	Info	-	12	01/27/2004	11:41	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP0	POST	Yes	12	01/27/2004	11:38	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP0	OBP	Yes	12	01/27/2004	11:37	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP0	Ver	-	-	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/SB0/FP0	Info	-	12	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP1	POST	Yes	12	01/27/2004	11:38	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP1	OBP	Yes	12	01/27/2004	11:37	5.0	5.17.0
/N0/SB0/FP1	Ver	-	-	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/SB0/FP1	Info	-	12	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP0	POST	Yes	12	01/27/2004	11:38	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP0	OBP	Yes	12	01/27/2004	11:37	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP0	Ver	-	-	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/SB2/FP0	Info	-	12	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP1	POST	Yes	12	01/27/2004	11:38	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP1	OBP	Yes	12	01/27/2004	11:37	5.0	5.17.0
/N0/SB2/FP1	Ver	-	-	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/SB2/FP1	Info	-	12	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0
/N0/SB4/FP0	POST	Yes	12	01/27/2004	11:38	5.0	5.17.0
/N0/SB4/FP0	OBP	Yes	12	01/27/2004	11:37	5.0	5.17.0
/N0/SB4/FP0	Ver	-	-	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0 Build_05
/N0/SB4/FP0	Info	-	12	01/27/2004	11:39	5.0	5.17.0

コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

```

/N0/SB4/FP1 POST Yes 12 01/27/2004 11:38 5.0 5.17.0
/N0/SB4/FP1 OBP Yes 12 01/27/2004 11:37 5.0 5.17.0
/N0/SB4/FP1 Ver - - 01/27/2004 11:39 5.0 5.17.0 Build_05
/N0/SB4/FP1 Info - 12 01/27/2004 11:39 5.0 5.17.0

```

```

Slot Populated Slot Description
----
/N0/IB6/P0/B1/C0 Empty 33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1 Empty 33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C2 Empty 33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C3 Empty 33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C4 Empty 33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C5 Empty 66/33MHz. 3.3V Short PCI card

```

```

Component Part # Serial # Description
-----
/N0/SB0 540-5467-01-50 001004 CPU Board (1280)
/N0/SB4 540-5467-01-50 000096 CPU Board (1280)
/N0/SB0/P0/B0/D0 501-5401-03-50 KD0W2F 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D1 501-5401-03-50 KD0W2K 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D2 501-5401-03-50 KD0W2P 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D3 501-5401-03-50 KD0W2W 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B1/D0 501-5401-03-50 KD0W2N 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B1/D1 501-5401-03-50 KD0W2R 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B1/D2 501-5401-03-50 KD0W2T 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B1/D3 501-5401-03-50 KD0W0T 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D0 501-5401-03-50 KD0W3B 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D1 501-5401-03-50 KD0W1Q 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D2 501-5401-03-50 KD0W05 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D3 501-5401-03-50 KD24GK 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B1/D0 501-5401-03-50 KD0W3C 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B1/D1 501-5401-03-50 KD0W35 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B1/D2 501-5401-03-50 KD0VZX 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B1/D3 501-5401-03-50 KD0W1W 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D0 501-5401-03-50 KD0W1R 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D1 501-5401-03-50 KD0W0G 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D2 501-5401-03-50 KD0VZQ 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D3 501-5401-03-50 KD0W24 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B1/D0 501-5401-03-50 KD0W1V 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B1/D1 501-5401-03-50 KD0W07 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B1/D2 501-5401-03-50 KD0W0B 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B1/D3 501-5401-03-50 KD0W1X 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D0 501-5401-03-50 KD0W1Y 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D1 501-5401-03-50 KD0W20 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D2 501-5401-03-50 KD0W2B 256 MB NG SDRAM DIMM

```

コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

/N0/SB0/P3/B0/D3	501-5401-03-50	KD0W27	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B1/D0	501-5401-03-50	KD0W1Z	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B1/D1	501-5401-03-50	KD0W23	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B1/D2	501-5401-03-50	KD0W25	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B1/D3	501-5401-03-50	KD0W2D	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D0	501-5030-03-50	479985	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D1	501-5030-03-50	479986	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D2	501-5030-03-50	479987	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D3	501-5030-03-50	479988	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D0	501-5030-03-50	479989	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D1	501-5030-03-50	479797	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D2	501-5030-03-50	479975	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D3	501-5030-03-50	479795	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D0	501-5030-03-50	479977	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D1	501-5030-03-50	479978	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D2	501-5030-03-50	479979	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D3	501-5030-03-50	479980	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D0	501-5030-03-50	479981	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D1	501-5030-03-50	479982	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D2	501-5030-03-50	479983	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D3	501-5030-03-50	479984	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B0/D0	501-5401-03-50	712800	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B0/D1	501-5401-03-50	712818	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B0/D2	501-5401-03-50	812216	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B0/D3	501-5401-03-50	812243	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B1/D0	501-5401-03-50	712806	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B1/D1	501-5401-03-50	712802	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B1/D2	501-5401-03-50	712815	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P0/B1/D3	501-5401-03-50	812213	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B0/D0	501-5401-03-50	812241	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B0/D1	501-5401-03-50	812239	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B0/D2	501-5401-03-50	812246	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B0/D3	501-5401-03-50	812234	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B1/D0	501-5401-03-50	812208	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B1/D1	501-5401-03-50	812235	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B1/D2	501-5401-03-50	812237	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P1/B1/D3	501-5401-03-50	812209	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B0/D0	501-5401-03-50	712750	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B0/D1	501-5401-03-50	712751	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B0/D2	501-5401-03-50	712826	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B0/D3	501-5401-03-50	712829	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B1/D0	501-5401-03-50	812232	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B1/D1	501-5401-03-50	712827	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B1/D2	501-5401-03-50	712833	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P2/B1/D3	501-5401-03-50	712807	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P3/B0/D0	501-5401-03-50	712835	256	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB4/P3/B0/D1	501-5401-03-50	712681	256	MB	NG	SDRAM	DIMM

コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

```

/N0/SB4/P3/B0/D2 501-5401-03-50 712687 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB4/P3/B0/D3 501-5401-03-50 712803 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB4/P3/B1/D0 501-5401-03-50 712808 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB4/P3/B1/D1 501-5401-03-50 712810 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB4/P3/B1/D2 501-5401-03-50 712683 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB4/P3/B1/D3 501-5401-03-50 712688 256 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/E0 370-4128-03-50 4A5TDM 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P0/E1 370-4128-03-50 4A5TBD 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P1/E0 370-4128-03-50 4A5TBB 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P1/E1 370-4128-03-50 4A5TDN 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P2/E0 370-4128-03-50 4A5TBG 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P2/E1 370-4128-03-50 4A5TBJ 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P3/E0 370-4128-03-50 4A5TDY 4MB Ecache Module
/N0/SB0/P3/E1 370-4128-03-50 4A5TDV 4MB Ecache Module
/N0/SB2/P0/E0 370-4129-01-01 2APK8W 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P0/E1 370-4129-01-01 2APK9D 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P1/E0 370-4129-01-01 2APK91 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P1/E1 370-4129-01-01 2APK97 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P2/E0 370-4129-01-01 2APK95 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P2/E1 370-4129-01-01 2APK87 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P3/E0 370-4129-01-01 2APKA7 8MB Ecache Module
/N0/SB2/P3/E1 370-4129-01-01 2APKA5 8MB Ecache Module
/N0/SB4/P0/E0 370-4128-03-50 4A57JT 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P0/E1 370-4128-03-50 4A580U 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P1/E0 370-4128-03-50 4A580Y 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P1/E1 370-4128-03-50 4A57ZT 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P2/E0 370-4128-03-50 4A57JK 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P2/E1 370-4128-03-50 4A57HP 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P3/E0 370-4128-03-50 4A57HG 4MB Ecache Module
/N0/SB4/P3/E1 370-4128-03-50 4A57HV 4MB Ecache Module
/N0/SB2 501-6520-02-01 A00065 CPU Board V3
/N0/IB6 540-5564-01-01 A08712 IB_SSC Assembly (1280)

```

```

Component  Cpu Mask  Description
-----
/N0/SB0/P0 2.2      UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P1 2.2      UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P2 2.2      UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P3 2.2      UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB2/P0 1.1      UltraSPARC-IV, 660MHz, 16M ECache
/N0/SB2/P1 1.1      UltraSPARC-IV, 660MHz, 16M ECache
/N0/SB2/P2 1.1      UltraSPARC-IV, 660MHz, 16M ECache
/N0/SB2/P3 1.1      UltraSPARC-IV, 660MHz, 16M ECache
/N0/SB4/P0 6.0      UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache

```

コード例 12 showboards -v コマンド (続き)

/N0/SB4/P1	6.0	UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB4/P2	6.0	UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache
/N0/SB4/P3	6.0	UltraSPARC-III+, 660MHz, 8M ECache

- ボードのメモリーに関する情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 13 showboards -p memory コマンド

```
lom>showboards -p memory
```

Component	Size	Reason
-----	----	-----
/N0/SB0	8192 MB	
/N0/SB2	8192 MB	

- 各ボードのバージョンを表示するには、次のように入力します。

コード例 14 showboards -p version コマンド

```
lom>showboards -p version
```

Component	Compatible	Version
-----	-----	-----
SSC1	Reference	5.17.0 Build_05
/N0/IB6	Yes	5.17.0 Build_05
/N0/SB0	Yes	5.17.0 Build_05
/N0/SB2	Yes	5.17.0 Build_05
/N0/SB4	Yes	5.17.0 Build_05

- ボードの入出力に関する情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 15 showboards -p io コマンド

```
lom>showboards -p io
```

Slot	Populated	Slot Description
----	-----	-----
/N0/IB6/P0/B1/C0	Empty	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1	Empty	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C2	Empty	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C3	Empty	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C4	Empty	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C5	Empty	66/33MHz. 3.3V Short PCI card

- ボードのシリアル番号に関する情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 16 showboards -p serial コマンド

```
lom>showboards -p serial
```

Component	Part #	Serial #	Description
-----	-----	-----	-----
/NO/SB0	501-4362-08-50	013362	CPU Board
/NO/SB2	501-4362-08-50	014812	CPU Board
/NO/SB0/P0/B0/D0	501-5030-02-50	428079	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P0/B0/D1	501-5030-02-50	428080	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P0/B0/D2	501-5030-02-50	428081	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P0/B0/D3	501-5030-02-50	428082	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P1/B0/D0	501-5030-02-01	010398	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P1/B0/D1	501-5030-02-01	010486	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P1/B0/D2	501-5030-02-01	010400	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P1/B0/D3	501-5030-02-01	010392	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P2/B0/D0	501-5030-02-50	072411	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P2/B0/D1	501-5030-02-50	428072	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P2/B0/D2	501-5030-02-50	428073	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P2/B0/D3	501-5030-02-50	428074	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P3/B0/D0	501-5030-02-50	428075	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P3/B0/D1	501-5030-02-50	428076	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P3/B0/D2	501-5030-02-50	428077	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P3/B0/D3	501-5030-02-50	428078	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P0/B1/D0	501-5030-02-50	072392	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P0/B1/D1	501-5030-02-50	072403	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P0/B1/D2	501-5030-02-50	072399	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P0/B1/D3	501-5030-02-50	072396	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P1/B1/D0	501-5030-02-50	072388	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P1/B1/D1	501-5030-02-50	072273	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P1/B1/D2	501-5030-02-50	072398	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P1/B1/D3	501-5030-02-50	072394	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P2/B1/D0	501-5030-02-50	072395	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P2/B1/D1	501-5030-02-50	072393	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P2/B1/D2	501-5030-02-50	072406	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P2/B1/D3	501-5030-02-50	072410	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P3/B1/D0	501-5030-02-50	072402	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P3/B1/D1	501-5030-02-50	072404	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P3/B1/D2	501-5030-02-50	072400	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB2/P3/B1/D3	501-5030-02-50	072397	512 MB NG SDRAM DIMM
/NO/SB0/P0/E0	370-4125-01-01	498D2H	4MB Ecache Module
/NO/SB0/P0/E1	370-4125-01-01	498BUW	4MB Ecache Module
/NO/SB0/P1/E0	370-4125-01-01	498BD0	4MB Ecache Module
/NO/SB0/P1/E1	370-4125-01-01	498D1D	4MB Ecache Module
/NO/SB0/P2/E0	370-4125-01-01	498BTV	4MB Ecache Module
/NO/SB0/P2/E1	370-4125-01-01	498BKY	4MB Ecache Module

コード例 16 showboards -p serial コマンド (続き)

/N0/SB0/P3/E0	370-4125-01-01	498AYK	4MB	Ecachel Module
/N0/SB0/P3/E1	370-4125-01-01	498BU6	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P0/E0	370-4125-01-01	4950NH	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P0/E1	370-4125-01-01	4951EZ	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P1/E0	370-4125-01-01	494XTW	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P1/E1	370-4125-01-01	495581	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P2/E0	370-4125-01-01	4951NN	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P2/E1	370-4125-01-01	4951AV	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P3/E0	370-4125-01-01	4951DK	4MB	Ecachel Module
/N0/SB2/P3/E1	370-4125-01-01	4950P0	4MB	Ecachel Module
/N0/IB6	000-0000-01-01	6543		PCI I/O Board

- CPU に関する情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 17 showboards -p cpu コマンド

```

lom>showboards -p cpu
Component      Description
-----
/N0/SB0/P0     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB0/P1     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB0/P2     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB0/P3     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB2/P0     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB2/P1     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB2/P2     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
/N0/SB2/P3     UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECachel
    
```

表 7 showboards コマンドの出力ヘッダーの説明

ヘッダー	説明
Slot	スロット指示子。CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリのスロット指示子の前の N0 はノード番号で、必ず 0 になります。
Pwr	FRU の電源が入っているかどうかを示します。
Component type	各スロットに取り付けられているボードの説明を示します。
FRU state	FRU の状態を示します (表 2 を参照)。
Test status	テストの状態を示します (表 3 を参照)。

# showcodlicense

COD ライセンスデータベースに現在格納されている COD 使用権 (RTU) ライセンスを表示します。

## 構文

```
showcodlicense [-r] [-v]
```

```
showcodlicense -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

-r	ライセンスキーが COD ライセンスデータベースに格納されている場合に、そのライセンス情報を加工されていないそのままの形式で表示します。
-v	冗長モードになります。わかりやすい形式に加工されたライセンス情報と、加工されていないライセンスキーの両方を表示します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

## 説明

表 8 に、showcodlicense コマンドで表示されるデフォルトの COD 情報を示します。

表 8 COD ライセンス情報

項目	説明
Description	リソースタイプ (プロセッサ)
Ver	ライセンスのバージョン番号
Expiration	NONE - サポートされていません (有効期限はありません)。
Count	指定したリソースに与えられている COD RTU ライセンスの数
Status	次のいずれかの状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• GOOD - リソースのライセンスが有効</li><li>• EXPIRED - リソースのライセンスが無効</li></ul>

## 関連項目

addcodlicense、deletecodlicense、showcodusage



## 例

- COD RTU ライセンスキーのデータをわかりやすく加工された形式で表示するには、次のように入力します。

コード例 18 `showcodlicense` コマンドの出力例 – わかりやすく加工された COD RTU ライセンスデータ

```
lom> showcodlicense
Description Ver   Expiration  Count  Status
-----
PROC          01          NONE      4  GOOD
```

- COD RTU ライセンスキーを表示するには、次のように入力します。

コード例 19 `showcodlicense -r` コマンドの出力例 – COD RTU ライセンスキー

```
lom> showcodlicense -r
01:83198b89:001:0201000000:4:00000000:E4pE0ud078XFrEGXQd88Xg
```

- COD RTU ライセンスキーのデータを、わかりやすく加工された形式および加工されていない形式の両方で表示するには、次のように入力します。

コード例 20 `showcodlicense -v` コマンドの出力例 – わかりやすく加工された COD RTU ライセンスデータと加工されていない COD RTU ライセンスデータ

```
lom> showcodlicense -v
Description Ver   Expiration  Count  Status
-----
PROC          01          NONE      4  GOOD
01:83198b89:001:0201000000:4:00000000:E4pE0ud078XFrEGXQd88Xg
```

# showcodusage

COD リソースの現在の使用状況に関する統計情報を表示します。

## 構文

```
showcodusage [-v] [-p domains|all] ...
```

```
showcodusage -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

-p domains	Solaris ドメインの一部である CPU の COD の使用状況を表示します。
-p all	リソースタイプ別およびドメイン別の両方で、COD の使用状況を表示します。
-v	冗長モードになります。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

## 説明

このコマンドは、使用中の COD RTU ライセンスの現在の情報を表示します。デフォルトでは、使用中またはインストールされている COD RTU ライセンスの概要と、各リソースの現在の状況が表示されます。

## 関連項目

showcodlicense

## 例

- ドメイン別の情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 21 showcodusage コマンドのドメイン別の出力例

```
lom> showcodusage -v -p domains
Domain/Resource  In Use  Installed  Reserved  Status
-----
A - PROC        4       4          0
  SB0 - PROC     4       4
  /N0/SB0/P0                    Licensed
  /N0/SB0/P1                    Licensed
  /N0/SB0/P2                    Licensed
```

コード例 21 showcodusage コマンドのドメイン別の出力例 (続き)

	/N0/SB0/P3			Licensed
Unused - PROC	0	0	0	

表 9 に、表示されるドメイン情報を示します。

表 9 showcodusage ドメイン情報

項目	説明
Domain/Resource	各ドメインの COD リソース (プロセッサ)。Unused と表示されたプロセッサは、ドメインに割り当てられていない COD CPU です。
In Use	現在ドメインで使用中の COD CPU の数
Installed	ドメインに取り付けられている COD CPU の数
Reserved	ドメインに割り当てられている COD RTU ライセンスの数
Status	次のいずれかの CPU 状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Licensed – COD CPU に対応する COD RTU ライセンスがあります。</li> <li>• Unused – COD CPU は使用されていません。</li> <li>• Unlicensed – COD CPU に対応する COD RTU ライセンスを取得していないので、COD CPU は使用できません。</li> </ul>

- リソースタイプ別およびドメイン別の両方で情報を表示するには、次のように入力します。

コード例 22 showcodusage コマンドのリソース別およびドメイン別の出力例

```
lom> showcodusage -v
```

Resource	In Use	Installed	Licensed	Status
-----	-----	-----	-----	-----
PROC	4	4	0	
/N0/SB0/P0				Licensed
/N0/SB0/P1				Licensed
/N0/SB0/P2				Licensed
/N0/SB0/P3				Licensed
Unused - PROC	0	0	0	

# showcomponent

コンポーネントの一覧を表示します。

## 構文

```
showcomponent [-v] component-name [ component-name ... ]
```

```
showcomponent -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-v	冗長モードになります。
<i>component-name</i>	表 10 に示すボードの名前を指定します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。 <i>component-name</i> の構文も含まれます。

---

表 10 showcomponent コマンドの説明

---

コンポーネントの説明	<i>component-name</i> の値
CPU システム	<i>slot</i>
CPU/メモリーボード ( <i>slot</i> )	sb0、sb2、sb4
CPU/メモリーボード上のポート	p0、p1、p2、p3
CPU/メモリーボード上の物理メモリーバンク	b0、b1
CPU/メモリーボード上の論理バンク	10、11、12、13
リピータシステム	<i>slot</i>
リピータボード	rp0、rp2
I/O アセンブリシステム	<i>slot</i>
I/O アセンブリ ( <i>slot</i> )	ib6
I/O アセンブリ上のポート	p0、p1
I/O アセンブリ上のバス	b0、b1
I/O アセンブリ上の I/O カード	c0、c1、c2、c3、c4、c5

---

## 説明

コンポーネントの一覧を表示します。それぞれのコンポーネントの **POST** およびブラックリストの状態も表示されます。**Status** 列には、コンポーネントの現在のブラックリストの状態が表示されます。**Pending** 列には、コンポーネントに対して要求されているブラックリストの状態が表示されます。この要求は、次の再起動または動的再構成のあとで有効になります。**POST** 列には、最新の **POST** の結果が表示されます。

---

**注** – システムがスタンバイモードのときに、リピータボードが `disablecomponent` コマンドを使用してブラックリストに登録された場合、または `enablecomponent` コマンドを使用してブラックリストから削除された場合、これらの変更はシステムにふたたび電源が投入されるまで `showcomponent` の出力には反映されません。

---

## 関連項目

- `enablecomponent`
- `disablecomponent`
- 『Sun Fire エントリレベルミッドレンジシステム管理マニュアル』(コンポーネントを表示する手順)

## 例

- スロット `sb0` のコンポーネントの一覧を表示するには、次のように入力します。

### コード例 23 CPU/メモリーボードに対する `showcomponent` コマンド

```
lom>showcomponent sb0
Component      Status  Pending  POST  Description
-----
/N0/SB0/P0     enabled -         pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P1     enabled -         pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P2     enabled -         pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P3     enabled -         pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P0/B0/L0  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P0/B0/L2  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P0/B1/L1  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P0/B1/L3  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P1/B0/L0  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P1/B0/L2  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P1/B1/L1  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P1/B1/L3  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P2/B0/L0  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P2/B0/L2  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P2/B1/L1  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P2/B1/L3  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P3/B0/L0  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P3/B0/L2  enabled -         pass  512M DRAM
/N0/SB0/P3/B1/L1  enabled -         untest empty
/N0/SB0/P3/B1/L3  enabled -         untest empty
```

- ib6 のコンポーネントの一覧を表示するには、次のように入力します。

コード例 24 IB\_SSC FRU の IB6 サブアセンブリに対する showcomponent コマンド

```
lom> showcomp ib6
```

Component	Status	Pending	POST	Description
/N0/IB6/P0	enabled	-	untest	IO Controller 0
/N0/IB6/P1	enabled	-	untest	IO Controller 1
/N0/IB6/P0/B0	enabled	-	untest	66/33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1	enabled	-	untest	33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P1/B0	enabled	-	untest	66/33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P1/B1	enabled	-	untest	33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1/C0	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C2	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C3	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C4	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C5	enabled	-	untest	66/33MHz. 3.3V Short PCI card

# showdate

システムの現在の日付および時刻を表示します。

## 構文

```
showdate [-tv]
```

```
showdate -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-v	冗長モードになります。
-t	設定できるタイムゾーンを表示します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムの現在の日付および時刻を表示します。また、`-t -v` を指定した場合は、設定できるタイムゾーンがすべて表示されます。

## 関連項目

`setdate`

## 例

コード例 25 `showdate` コマンド

```
lom> showdate  
Mon Apr 03 12:31:40 EDT 2000
```

# showenvironment

システムの現在の環境状態、温度、電圧、ファン状態などを表示します。

## 構文

```
showenvironment [-ltuvw] [-p part] [component]
```

```
showenvironment [-ltuvw] [component]
```

```
showenvironment -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-l	選択された各測定値に適用されるしきい値を表示します。しきい値を超えると、該当する警告情報が表示されます。
-t	ボードごとにタイトルを付けて表示します。
-u	すべてのセンサーへのポーリングを実行して、最新の値を表示します。
-v	冗長モードになります。
-w	選択した各測定値に適用される警告のしきい値が表示されます。
-p	特定の情報を表示します。

*part* に指定できる値は、次のとおりです。

- *faults* - 推測値が表示されます。
- *temps* - 温度が表示されます。
- *voltage* - 電圧が表示されます。
- *fan* - ファン状態が表示されます。

*component* FRU の名前を指定します。ここで指定した FRU の情報だけが表示されます。

-h このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムの現在の環境状態、温度、電圧、ファン状態などを表示します。

このコマンドを使用すると、監視されている各センサーに対して許容される最大値および最小値が表示されます。引数を指定せずにコマンドを実行すると、すべての環境情報が表示されます。



## 例

- システム内のすべての装置の現在の状態を表示するには、次のように入力します。

### コード例 26 showenvironment コマンド

```
lom> showenvironment
```

Slot	Device	Sensor	Value	Units	Age	Status
SSC1	SBBC 0	Temp. 0	37	Degrees C	1 sec	OK
SSC1	CBH 0	Temp. 0	45	Degrees C	1 sec	OK
SSC1	Board 0	Temp. 0	24	Degrees C	1 sec	OK
SSC1	Board 0	Temp. 1	22	Degrees C	1 sec	OK
SSC1	Board 0	Temp. 2	28	Degrees C	1 sec	OK
SSC1	Board 0	1.5 VDC 0	1.49	Volts DC	1 sec	OK
SSC1	Board 0	3.3 VDC 0	3.35	Volts DC	1 sec	OK
SSC1	Board 0	5 VDC 0	5.01	Volts DC	1 sec	OK
/N0/PS0	Input 0	Volt. 0	--	--	6 sec	OK
/N0/PS0	48 VDC 0	Volt. 0	48.00	Volts DC	6 sec	OK
/N0/PS1	Input 0	Volt. 0	--	--	5 sec	OK
/N0/PS1	48 VDC 0	Volt. 0	48.00	Volts DC	5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 0	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 1	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 2	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 3	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 4	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 5	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 6	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/FT0	Fan 7	Cooling 0	Auto		5 sec	OK
/N0/RP0	Board 0	1.5 VDC 0	1.51	Volts DC	5 sec	OK
/N0/RP0	Board 0	3.3 VDC 0	3.35	Volts DC	5 sec	OK
/N0/RP0	Board 0	Temp. 0	22	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP0	Board 0	Temp. 1	22	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP0	SDC 0	Temp. 0	63	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP0	AR 0	Temp. 0	47	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP0	DX 0	Temp. 0	62	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP0	DX 1	Temp. 0	66	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	Board 0	1.5 VDC 0	1.49	Volts DC	4 sec	OK
/N0/RP2	Board 0	3.3 VDC 0	3.33	Volts DC	4 sec	OK
/N0/RP2	Board 0	Temp. 0	24	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	Board 0	Temp. 1	23	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	SDC 0	Temp. 0	57	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	AR 0	Temp. 0	42	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	DX 0	Temp. 0	53	Degrees C	5 sec	OK
/N0/RP2	DX 1	Temp. 0	56	Degrees C	5 sec	OK
/N0/SB0	Board 0	1.5 VDC 0	1.50	Volts DC	4 sec	OK
/N0/SB0	Board 0	3.3 VDC 0	3.33	Volts DC	5 sec	OK

コード例 26 showenvironment コマンド (続き)

```

/N0/SB0 SDC 0      Temp. 0      49      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 AR 0       Temp. 0      39      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 DX 0       Temp. 0      50      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 DX 1       Temp. 0      55      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 DX 2       Temp. 0      58      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 DX 3       Temp. 0      53      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 SBBC 0     Temp. 0      53      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 Board 1   Temp. 0      28      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 Board 1   Temp. 1      26      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 CPU 0      Temp. 0      56      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 CPU 0      1.8 VDC 0     1.72 Volts DC  5 sec OK
/N0/SB0 CPU 1      Temp. 0      50      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 CPU 1      1.8 VDC 1     1.74 Volts DC  5 sec OK
/N0/SB0 SBBC 1     Temp. 0      40      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 Board 1   Temp. 2      28      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 Board 1   Temp. 3      29      Degrees C      5 sec OK
/N0/SB0 CPU 2      Temp. 0      53      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB0 CPU 2      1.8 VDC 0     1.72 Volts DC  6 sec OK
/N0/SB0 CPU 3      Temp. 0      49      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB0 CPU 3      1.8 VDC 1     1.72 Volts DC  6 sec OK
/N0/SB2 Board 0   1.5 VDC 0     1.52 Volts DC  6 sec OK
/N0/SB2 Board 0   3.3 VDC 0     3.35 Volts DC  6 sec OK
/N0/SB2 SDC 0      Temp. 0      51      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 AR 0       Temp. 0      41      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 DX 0       Temp. 0      52      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 DX 1       Temp. 0      55      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 DX 2       Temp. 0      61      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 DX 3       Temp. 0      53      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 SBBC 0     Temp. 0      52      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 Board 1   Temp. 0      27      Degrees C      6 sec OK
/N0/SB2 Board 1   Temp. 1      26      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 0      Temp. 0      54      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 0      1.8 VDC 0     1.72 Volts DC  7 sec OK
/N0/SB2 CPU 1      Temp. 0      52      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 1      1.8 VDC 1     1.73 Volts DC  7 sec OK
/N0/SB2 SBBC 1     Temp. 0      43      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 Board 1   Temp. 2      27      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 Board 1   Temp. 3      27      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 2      Temp. 0      51      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 2      1.8 VDC 0     1.71 Volts DC  7 sec OK
/N0/SB2 CPU 3      Temp. 0      51      Degrees C      7 sec OK
/N0/SB2 CPU 3      1.8 VDC 1     1.71 Volts DC  7 sec OK
/N0/IB6 Board 0   1.5 VDC 0     1.51 Volts DC  7 sec OK
/N0/IB6 Board 0   3.3 VDC 0     3.29 Volts DC  7 sec OK
/N0/IB6 Board 0   5 VDC 0       4.95 Volts DC  7 sec OK
/N0/IB6 Board 0   12 VDC 0      11.88 Volts DC 7 sec OK
/N0/IB6 Board 0   Temp. 0      30      Degrees C      7 sec OK

```

コード例 26 showenvironment コマンド (続き)

/N0/IB6 Board 0	Temp. 1	28	Degrees C	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	3.3 VDC 1	3.30	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	3.3 VDC 2	3.30	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	1.8 VDC 0	1.81	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	2.5 VDC 0	2.51	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Fan 0	Cooling 0	High		3 sec OK
/N0/IB6 Fan 1	Cooling 0	High		3 sec OK
/N0/IB6 SDC 0	Temp. 0	63	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 AR 0	Temp. 0	73	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 DX 0	Temp. 0	68	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 DX 1	Temp. 0	72	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 SBBC 0	Temp. 0	49	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 IOASIC 0	Temp. 0	45	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 IOASIC 1	Temp. 1	51	Degrees C	8 sec OK

showenvironment の出力ヘッダーの詳細は、表 11 を参照してください。

表 11 showenvironment コマンドの出力ヘッダーの説明

コード例のヘッダー	値	説明
Slot		スロット ID
Device		センサーが監視している装置
Sensor		装置の環境データを測定するコンポーネント
Value		センサーが戻した値 (Age 列に示されている経過時間 (秒) 前のデータ)
Units		センサーが使用する単位 (有効な単位は「値」列を参照)
	C	摂氏温度
	V	ボルト
Age		値を取得してから表示されるまでの経過時間 (秒)
Status		状態についての値 (「値」列を参照)
	*** WARNING HIGH ***	値が最大しきい値を超えている
	* NOTICE High *	値が警告と最大しきい値の間である
	* NOTICE Low *	値が最小しきい値に満たない
	*** WARNING LOW ***	値が最小しきい値に満たない
	OK	値が範囲内である
	failed	センサーの値を受信できない

# showerrorbuffer

エラーバッファの内容を表示します。

## 構文

```
showerrorbuffer [-p [-n nnn]]
```

```
showerrorbuffer -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-p	永続システムエラーバッファに保存されているエラーメッセージを表示します。このオプションは、拡張メモリーシステムコントローラ (SC V2) で構成されているシステムでのみ使用できます。
-n <i>nnn</i>	指定した数 ( <i>nnn</i> に整数で指定) のエラーメッセージを日付順に表示します。 たとえば、-p -n 5 を指定すると、永続システムエラーバッファに保存されているエラーメッセージの最新の 5 件が表示されます。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムのハードウェアエラーレジスタによって検出されたエラーメッセージ情報を取得して、エラーバッファに格納します。

すべてのエントリレベルミッドレンジシステムには、システムエラーレコードを短期的に保存する、動的なエラーバッファがあります。システムエラーがメッセージログバッファに記録されると、動的なエラーバッファのシステムエラーレコードは、バッファにさらに領域が必要になったときに自動的に消去されます。

SC V2 が構成されているエントリレベルミッドレンジシステムには、動的なエラーバッファと永続的なエラーバッファの両方があります。永続的なエラーバッファは、発生したシステムエラーを取得し、エラーバッファがいっぱいになるまでシステムエラーレコードを格納します。永続的なエラーバッファがいっぱいになると、新しいシステムエラーレコードによって、永続的なバッファ内の既存のエラーレコードが先頭から上書きされます。

- システムが、永続エラーバッファの機能を持つ SC V2 で構成されている場合、-p および -n オプションを使用すると、永続エラーバッファに保存されているメッセージを表示できます。この情報は、システムを再起動しても保持されません。
- システムのエラーバッファが小さい (SC に拡張メモリーがない) 場合、エラーメッセージは永続的には保存されません。つまり、SC を再起動すると、エラーバッファの内容が消去されます。

ただし、エラー時に自動的にドメインを再起動するように設定している場合には、showerrorbuffer コマンドを実行することによってエラーメッセージを確認できます。showerrorbuffer コマンドを実行しないと、ドメインの再起動時にエラーメッセージが失われる可能性があります。

ユーザーおよび保守プロバイダは、このコマンドを使用して、障害追跡のための情報を入手できます。

## 関連項目

なし

## 例

- ハードウェアエラーを表示するには、次のように入力します。

### コード例 27 showerrorbuffer コマンドのハードウェアエラーの出力例

```
lom> showerrorbuffer
ErrorData[0]
  Date: Fri Jan 30 10:23:32 EST 2004
  Device: /SSC1/sbbc0/systemepld
  Register: FirstError[0x10] : 0x0200
           SB0 encountered the first error
ErrorData[1]
  Date: Fri Jan 30 10:23:32 EST 2004
  Device: /SB0/bbcGroup0/repeaterepld
  Register: FirstError[0x10]: 0x0002
           sdc0 encountered the first error
ErrorData[2]
  Date: Fri Jan 30 10:23:32 EST 2004
  Device: /SB0/sdc0
  ErrorID: 0x60171010
  Register: SafariPortError0[0x200] : 0x00000002
           ParSglErr [01:01] : 0x1 ParitySingle error
```

- SC V2 で構成されているシステムのメッセージバッファに永続的に保存されているハードウェアエラーの情報を表示するには、次のように入力します。

### コード例 28 showerrorbuffer コマンドの出力例 - 永続的に保存されたエラー情報

```
lom> showerrorbuffer -p -n 2
  Date: Fri Jan 30 10:23:32 EST 2004
  Device: /SB0/bbcGroup0/repeaterepld
  Register: FirstError[0x10]: 0x0002
           sdc0 encountered the first error

  Date: Fri Jan 30 10:23:32 EST 2004
  Device: /SB0/sdc0
```

コード例 28 showerrorbuffer コマンドの出力例 - 永続的に保存されたエラー情報 (続き)

```
ErrorID: 0x60171010
Register: SafariPortError0[0x200] : 0x00000002
          ParSglErr [01:01] : 0x1 ParitySingle error
```

# showescape

現在のエスケープシーケンスを表示します。

## 構文

```
showescape
```

```
showescape -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

このコマンドは、現在のエスケープシーケンスを表示します。

## 関連項目

```
setescape
```

## 例

```
lom> showescape  
#.
```

# showeventreporting

LOM ソフトウェアのイベントレポートおよびメッセージに適用される設定を表示します。

## 構文

```
showeventreporting
```

```
showeventreporting -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

LOM ソフトウェアのイベントレポートおよびメッセージに適用される設定を表示します。

## 関連項目

```
seteventreporting
```

## 例

```
lom> showeventreporting  
eventreporting is default  
reporting level is fatal, warning & information (3)
```



# showfault

システム障害 LED の状態を表示します。

## 構文

```
showfault
```

```
showfault -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

システム障害 LED の状態を表示します。

## 関連項目

```
showalarm
```

## 例

```
lom> showfault  
fault is off
```

# showhostname

システムのホスト名を表示します。

## 構文

```
showhostname
```

```
showhostname -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

Solaris ホストのホスト名を表示します。

ホスト名は、Solaris オペレーティングシステムが動作している場合にだけ表示されます。Solaris オペレーティングシステムが動作していない場合は、- が表示されません。

## 関連項目

showmodel

## 例

```
lom> showhostname  
hostname
```

# showlocator

システムロケータ LED の状態を表示します。

## 構文

```
showlocator
```

```
showlocator -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 例

```
lom> showlocator  
locator is off
```

## 関連項目

```
setlocator
```

## showlogs

システムコントローラがメッセージバッファに格納したイベントの記録を表示します。

### 構文

```
showlogs [-p [-f filter] [-n nnn]] [-v]
```

```
showlogs -h
```

### オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-p	永続エラーバッファに保存されているエラーメッセージを表示します。このオプションは、拡張メモリーシステムコントローラ (SC V2) で構成されているシステムでのみ使用できます。
-n <i>nnn</i>	指定した数 ( <i>nnn</i> に整数で指定) のエラーメッセージを日付順に表示します。 たとえば、-p -n 5 を指定すると、永続エラーバッファに保存されているエラーメッセージの最新の 5 件が表示されます。
-f <i>filter</i>	指定した種類のメッセージ情報が表示されます。 <i>filter</i> には、次のいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• alert - 警報メッセージ</li><li>• critical - 重大メッセージ</li><li>• emergency - 緊急メッセージ</li><li>• error - エラーメッセージ</li><li>• fault - 障害メッセージ</li><li>• warning - 警告メッセージ</li></ul>
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

### 説明

動的メッセージバッファに格納されているログメッセージを表示します。動的バッファのメッセージ記憶領域は一時的なものです。

- 動的バッファがいっぱいになると、コンソールに記録された古いメッセージは新しいメッセージで上書きされます。これらは、システムコントローラからのメッセージで、Solaris オペレーティングシステムのメッセージではありません。
- 動的バッファは、システムコントローラの再起動または電力供給の停止が発生すると消去されます。

SC V2 を装備したシステムでは、動的バッファ内の、重要度が `.alert`、`.error`、`.emerg`、`.warning`、および `.critical` のメッセージは、永続記憶領域に保持されて、システムの再起動または電力供給の停止が発生しても消去されません。永続記憶バッファがいっぱいになると、新しいメッセージはバッファの先頭に折り返され、バッファの先頭にある既存のメッセージが最新のメッセージで上書きされます。

ログホストを設定すると、ログホストにもメッセージが記録されて保持されます。

### 関連項目

- `history`
- `resetsc`

### 例

- システムを再起動したあとで、コンソールで実行された `showlogs` コマンドの出力を表示するには、次のように入力します。

#### コード例 29 システムの再起動後に実行する `showlogs` コマンドの出力例

```
lom> showlogs

Fri Jan 30 10:07:19 commando lom: [ID 512236 local0.notice] Boot: ScApp 5.17.0,
RTOS 38
Fri Jan 30 10:07:21 commando lom: [ID 427980 local0.notice] SBBC Reset Reason(s):
Peer Reset, Watchdog Reset
Fri Jan 30 10:07:28 commando lom: [ID 390645 local0.notice] Caching ID
information
Fri Jan 30 10:07:29 commando lom: [ID 667165 local0.notice] Clock Source: 12430-
synthesizer
Fri Jan 30 10:07:34 commando lom: [ID 641509 local0.notice] /N0/PS0: Status is OK
Fri Jan 30 10:07:35 commando lom: [ID 251798 local0.notice] /N0/PS1: Status is OK
Fri Jan 30 10:07:36 commando lom: [ID 762068 local0.notice] /N0/PS2: Status is OK
Fri Jan 30 10:07:36 commando lom: [ID 372357 local0.notice] /N0/PS3: Status is OK
Fri Jan 30 10:07:37 commando lom: [ID 515227 local0.notice] Chassis is in single
partition mode.
Fri Jan 30 10:08:24 commando lom: [ID 428967 local0.notice] Partially powered
on board CPU Board V3 at /N0/SB2 powered off
Fri Jan 30 10:08:39 commando lom: [ID 939453 local0.notice] Clear
/N0/SB4/P1/B1/D2 invalid segment
Fri Jan 30 10:09:10 commando lom: [ID 965595 local0.warning] Keyswitch was
interrupted on domain A. Recovering....
Fri Jan 30 10:09:29 commando lom: [ID 629580 local0.notice] Domain A is now in
keyswitch "off" position
Fri Jan 30 10:09:30 commando lom: [ID 596773 local0.notice] Starting telnet
server ...
```

- SC V2 を装備したシステムの永続ログの出力を表示するには、コンソールで次のように入力します。

コード例 30 showlogs の永続ログの出力例

```
lom>showlogs -p
Fri Jan 30 10:09:10 commando lom: [ID 965595 local0.warning] Keyswitch was
interrupted on domain A. Recovering....
Fri Jan 30 10:13:45 commando lom: [ID 991471 local0.warning] Agent {/N0/SB0/P0}
is disabled.
Fri Jan 30 10:13:45 commando lom: [ID 388680 local0.warning] Agent {/N0/SB0/P1}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:04 commando lom: [ID 685870 local0.warning] Agent {/N0/SB0/P2}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:04 commando lom: [ID 983060 local0.warning] Agent {/N0/SB0/P3}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:27 commando lom: [ID 392085 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P0/C0} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:27 commando lom: [ID 689275 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P0/C1} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:28 commando lom: [ID 403192 local0.warning] Port {/N0/SB2/P0}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:28 commando lom: [ID 392149 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P1/C0} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:28 commando lom: [ID 689339 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P1/C1} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:28 commando lom: [ID 700382 local0.warning] Port {/N0/SB2/P1}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:44 commando lom: [ID 392213 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P2/C0} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:44 commando lom: [ID 689403 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P2/C1} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:45 commando lom: [ID 997572 local0.warning] Port {/N0/SB2/P2}
is disabled.
Fri Jan 30 10:14:45 commando lom: [ID 392277 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P3/C0} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:45 commando lom: [ID 689467 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P3/C1} is disabled.
Fri Jan 30 10:14:45 commando lom: [ID 394781 local0.warning] Port {/N0/SB2/P3}
is disabled.
Fri Jan 30 10:15:15 commando lom: [ID 152595 local0.warning] Agent {/N0/SB4/P0}
is CHS disabled.
Fri Jan 30 10:15:15 commando lom: [ID 152597 local0.warning] Agent {/N0/SB4/P1}
is CHS disabled.
Fri Jan 30 10:15:41 commando lom: [ID 152599 local0.warning] Agent {/N0/SB4/P2}
is CHS disabled.
Fri Jan 30 10:15:41 commando lom: [ID 152601 local0.warning] Agent {/N0/SB4/P3}
is CHS disabled.
```

コード例 30 showlogs の永続ログの出力例 (続き)

```
Fri Jan 30 10:18:30 commando lom: [ID 947844 local0.warning] Excluded unusable,
failed or disabled board: /N0/SB0
Fri Jan 30 10:18:31 commando lom: [ID 947848 local0.warning] Excluded unusable,
failed or disabled board: /N0/SB4
Fri Jan 30 10:18:31 commando lom: [ID 947846 local0.warning] Excluded unusable,
failed or disabled board: /N0/SB2
Fri Jan 30 10:18:31 commando lom: [ID 304509 local0.error] No usable Cpu board
in domain.
```

- 永続ログの出力の重大 (Critical) メッセージだけを表示するには、次のように入力します。

コード例 31 showlogs の永続ログの出力例、重大 (Critical) メッセージのみ

```
lom>showlogs -p -f critical

Mon Jan 26 10:06:07 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Mon Jan 26 10:06:07 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Mon Jan 26 10:06:11 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
Mon Jan 26 10:06:11 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
Fri Jan 30 10:02:39 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Fri Jan 30 10:02:39 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Fri Jan 30 10:02:49 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
Fri Jan 30 10:02:50 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
Fri Jan 30 10:22:55 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Fri Jan 30 10:22:55 commando lom: [ID 920266 local0.crit] ErrorMonitor: Domain
A has a SYSTEM ERROR
Fri Jan 30 10:23:06 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
Fri Jan 30 10:23:06 commando lom: [ID 764738 local0.crit] A fatal condition is
detected on Domain A. Initiating automatic restoration for this domain.
```

- 永続ログの出力のバッファ内にあるメッセージの最新の 5 件を表示するには、次のように入力します。

コード例 32 showlogs の永続ログの出力例、指定した件数のメッセージの表示

```
lom>showlogs -p -n 5

Fri Jan 30 10:26:20 commando lom: [ID 392277 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P3/C0} is disabled.
Fri Jan 30 10:26:20 commando lom: [ID 689467 local0.warning] Agent
{/N0/SB2/P3/C1} is disabled.
Fri Jan 30 10:26:20 commando lom: [ID 394781 local0.warning] Port {/N0/SB2/P3}
is disabled.
Fri Jan 30 10:26:23 commando lom: [ID 947846 local0.warning] Excluded unusable,
failed or disabled board: /N0/SB2
Fri Jan 30 10:26:28 commando lom: [ID 304509 local0.error] No usable Cpu board
in domain.
lom>
```



# showmodel

プラットフォームモデルを表示します。

## 構文

```
showmodel
```

```
showmodel -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

システムのプラットフォームモデルの名前を表示します。

## 関連項目

```
showhostname
```

## 例

```
lom>showmodel  
model: Sun Fire V1280
```

# shownetwork

システムコントローラ (LOM) のネットワーク設定および MAC アドレスを表示します。

## 構文

```
shownetwork [-v]
```

```
shownetwork -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-v	冗長モードになります。システムの Ethernet (MAC) アドレスが表示されます。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムコントローラ (LOM) のネットワーク設定および MAC アドレスを表示します。

## 例

```
lom> shownetwork

Network
-----
The system controller is configured to be on a network.
Network settings: static
Hostname: commando-sc
IP Address: 129.xxx.xxx.xxx
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx
DNS Domain: noone.somewhere.com
Primary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
Secondary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
Connection type: telnet
```

```
lom> shownetwork -v

Network
-----
The system controller is configured to be on a network.
Network settings: static
Hostname: commando-sc
IP Address: 129.xxx.xxx.xxx
Netmask: 255.255.255.0
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx
DNS Domain: noone.somewhere.com
Primary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
Secondary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
Connection type: telnet

MAC Address                                     HostID
-----
Host net0      00:03:ba:19:8b:89      83198b89
Host net1      00:03:ba:19:8b:8a      83198b8a
SC net         00:03:ba:19:8b:92      83198b92
```

## 関連項目

setupnetwork

## showresetstate

異常になった Solaris のリセットが行われたあとの CPU レジスタを表示します。

### 構文

```
showresetstate [-w|-s|-v] [-f URL]
```

```
showresetstate -h
```

### オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-w	ウィンドウを表示します。
-s	二次保存レジスタを表示します。
-v	すべてのレジスタを表示します。
-f	出力用の URL を指定します。
URL	出力を受信するためのファイルです。 サポートされるプロトコルは、FTP です。 <code>ftp://[userid:password@]hostname/path</code>
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

### 説明

異常になった Solaris のリセット (たとえば、Solaris ウォッチドッグによるタイムアウトの結果としてのリセット) が行われたあとの CPU レジスタを表示します。

# showsc

システムコントローラのバージョンおよび稼働時間に関する情報を表示します。

## 構文

```
showsc [-v]
```

```
showsc -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-v	冗長モードになります。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

システムコントローラに関するバージョン、稼働時間、Solaris の状態、および COD 情報を表示します。

## 例

### コード例 33 showsc コマンド

```
lom> showsc

SC: SSC1
System Controller
Clock failover disabled.

SC date: Thu Jul 01 11:19:03 EDT 2004
SC uptime: 1 hour 26 minutes 52 seconds

ScApp version: 5.18.0 Build_09
RTOS version: 40

Solaris Host Status: Powered Off

Chassis HostID: 83198b89
PROC RTUs installed: 0
PROC Headroom Quantity: 0
lom>
```

# shutdown

Solaris ソフトウェアを停止し、スタンバイモードにします。

## 構文

```
shutdown
```

```
shutdown -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-h	このコマンドのヘルプを表示します。
----	-------------------

---

## 説明

Solaris が動作している場合は、システムを正常に停止してから、電源を切ってスタンバイモードにします。Solaris が動作していない場合は、システムの電源を切ってスタンバイモードにします。

このコマンドは、poweroff コマンドよりも優先して使用してください。

## 関連項目

poweron、poweroff

## 例

```
lom>shutdown
Shutting down Solaris ...
lom>
lom>console

The system is down.
syncing file systems... done
Powering off ...
lom>Powering boards off ...
```

# ssh-keygen

Secure Shell (SSH) ホスト鍵の生成、または SSH ホスト鍵の指紋の表示を行います。

## 構文

```
ssh-keygen [-l] [-t <rsa|dsa>]
```

```
ssh-keygen [-r]
```

```
ssh-keygen [-h]
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-l	ホスト鍵の指紋を表示します。デフォルトは、RSA です。
-t	ホスト鍵の形式を指定します。デフォルトは、RSA です。
-r	ホスト鍵を再生成します。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

SSH ホスト鍵の生成、または SC のホスト鍵の指紋の表示を行います。

SC で SSH サーバーが使用可能になっている場合、SSH ホスト鍵が存在するかどうかはファームウェアによって確認されます。SSH ホスト鍵が存在しない場合は、ファームウェアによって 1 組の RSA 公開および非公開ホスト鍵が自動的に生成されます。SC の DSA ホスト鍵が必要な場合は、ssh-keygen に `-t` スイッチを指定して手動で実行する必要があります。

生成された新しいホスト鍵は、次のものを使用可能にすると、メモリーに読み込まれて有効になります。

- SSH サーバーが (ふたたび) 使用可能になる
- システムが再起動され、SSH サーバーが使用可能になる
- SSH サーバーが使用可能である間に `restartssh` コマンドを実行する

マシンを適切に管理するための望ましいセキュリティ対策は、定期的に新しいホスト鍵を生成することです。鍵が危険であると疑われる場合は、ssh-keygen コマンドを実行して、システムのホスト鍵を再生成できます。いったんホスト鍵を生成すると、これを交換することはできませんが、削除することはできません。新しく生成されたホスト鍵を有効にするには、restartssh コマンドを実行するか、再起動のコマンドを実行して、SSH サーバーを再起動する必要があります。

ホスト鍵のサイズは大きい (1K バイト) ため、ホスト鍵全体を確認することは困難です。ssh-keygen を使用すると、ホスト鍵の指紋を表示できます。ホスト鍵の指紋とは、MD5 メッセージダイジェストアルゴリズムによって出力される 16 オクテットのシーケンスで、小文字の 16 進数をコロンで区切った形式で表示されます。詳細は、コード例 34 を参照してください。

ホスト鍵は SC に格納されるため、dumpconfig を使用してバックアップし、restoreconfig によって復元できます。デフォルトでは、dumpconfig コマンドによって、暗号化形式で鍵が保存されます。SC フェイルオーバーが発生すると、鍵は冗長 SC にコピーされます。つまり、メイン SC と冗長 SC は、同じ SSH 鍵のセットを共有します。

ホスト鍵は、ssh-keygen を実行することで、いつでも再生成できます。ホスト鍵がすでに存在する場合は、-r スイッチを指定する必要があります。

## 関連項目

restartssh

## 例

コード例 34 ssh-keygen コマンドの例

```
lom> ssh-keygen -r -t rsa
Use 'restartssh' to restart the SSH server with the new host key.
lom>ssh-keygen -l
7d:0f:e7:50:b3:dc:68:75:89:cc:d5:4b:0d:35:b0:e7 (RSA host key)
```



# testboard

指定された CPU/メモリーボードをテストします。

## 構文

```
testboard [-f] board-name
```

```
testboard -h
```

## オプション/パラメータ

次の表に、すべてのオプションまたはパラメータとその使用方法を示します。

---

-f	テスト済みのボードを強制的にテストします。
<i>board-name</i>	テスト対象ボードを指定します。sb0、sb2、sb4 のいずれかを指定する必要があります。
-h	このコマンドのヘルプを表示します。

---

## 説明

コマンド行で指定した CPU/メモリーボードで POST を実行します。このとき、ボードは Solaris で使用されていない (showboards コマンドで表示される状態が Active でない) 状態にしておく必要があります。ボードの状態を表示するには、showboards コマンドを使用します。

## 例

- CPU/メモリーボード sb0 をテストする場合は、次のように入力します。

```
lom> testboard sb0
```



# 用語集

---

Capacity on Demand (COD)	必要に応じて、処理リソース (CPU) を追加するためのオプション。予備の CPU は、Sun Fire エントリーレベルミッドレンジシステムに搭載された COD CPU/メモリーボードで提供される。COD 使用权 (RTU) ライセンスを購入すると、COD CPU にアクセスできるようになる。
FRU	現場交換可能ユニット。電源装置、CPU/メモリーボード、ファンなどのシステムの個別部分。
LOM	Lights Out Management の略。
LOM プロンプト	LOM プロンプトでは、設定の制御、環境状態の表示、システムの電源の投入と切断、システムコントローラのパスワードの変更、およびシステムコントローラその他の機能を実行できる。  POST、Solaris オペレーティングシステム、または OpenBoot PROM が動作しておらず、システムコントローラソフトウェアだけが動作していれば、LOM プロンプト (lom>) を使用できる。  また、コンソールメッセージを表示することもできる。
POST	電源投入時自己診断 (Power-on self-test)。初期化されていないシステムハードウェアのコンポーネントを検索およびテストし、一貫性のある初期化済みのシステムに構成して、OpenBoot PROM に渡すプログラム。
RTU ライセンス	使用权 (RTU : Right-to-Use) ライセンス。
ScApp	システムコントローラ上で動作するソフトウェアアプリケーション。システム設定を変更するためのコマンド行インタフェースを提供する。
SEEPROM	Serial Erasable Programmable Read-Only Memory の略。
仮想時刻 (TOD Time of Day)	システムコントローラボードには、TOD/NVRAM チップが搭載されている。システムコントローラは、物理的に TOD チップを多重化して TOD サービスを提供する。

**環境監視** すべてのシステムには、温度、電圧、または電流を監視する多くのセンサーがある。システムコントローラは、適時に装置にポーリングし、有効な環境データを提供する。システムコントローラは、損傷を防ぐためにさまざまなコンポーネントを停止できる。

**システムコントローラ** システムのベースプレーンに接続された IB\_SSC アセンブリに常駐する組み込みシステム。電源投入処理、モジュールの電源投入時自己診断 (POST) の制御、環境監視、障害表示、アラームなどの Lights Out Management (LOM) 機能を提供する。

# 索引

---

## A

addcodlicense コマンド, 6

## B

bootmode コマンド, 7

break コマンド, 9

break コマンド、使用不可, 49

## C

COD (Capacity On Demand)

RTU ライセンス, 6, 11, 66

リソースの使用, 68

console コマンド, 10

CPU/メモリーボード、テスト, 99

## D

deletecodlicense コマンド, 11

## F

flashupdate コマンド, 16

## H

help コマンド, 19

history コマンド, 21

## I

inventory コマンド, 22

## L

logout コマンド, 23

## P

password コマンド, 24

poweroff コマンド, 25

poweron コマンド, 27

## R

reset コマンド, 29

reset コマンド、使用不可, 49

resetsc コマンド, 31

restartssh コマンド, 33

RTU (使用権) ライセンス, 6, 11, 66

## S

SCPOST、設定レベル, 49  
SEEPROM の内容、表示, 22  
setalarm コマンド, 34  
setdate コマンド, 36  
setlocator コマンド, 42  
setls コマンド, 43  
setupnetwork コマンド, 47  
setupsc コマンド, 49  
showalarm コマンド, 53  
showboards コマンド, 55  
showcodlicense コマンド, 66  
showcodusage コマンド, 68  
showcomponent コマンド, 70  
showdate コマンド, 73  
showenvironment コマンド, 74  
showerrorbuffer コマンド, 78  
showescape コマンド, 81  
showeventreporting コマンド, 82  
showfault コマンド, 83  
showhostname コマンド, 84  
showlogs コマンド, 86  
showmodel コマンド, 91  
shownetwork コマンド, 92  
showresetstate コマンド, 94  
showsc コマンド, 95  
shutdown コマンド, 96  
Solaris の起動設定, 7  
SSH (Secure Shell) プロトコル  
  SSH サーバーの再起動, 33  
  ホスト鍵, 97  
ssh-keygen コマンド, 97

## T

testboard コマンド, 99

## あ

アラーム  
  設定, 34  
  設定の表示, 53

## い

イベントレポート、状態の表示, 82  
イベントログ、表示, 86

## う

ウォッチドッグ、使用不可, 49

## え

永続ログ  
  ログメッセージ, 87  
エスケープ文字、表示, 81

## お

オン/スタンバイスイッチ、使用不可, 49

## か

稼働時間およびバージョン情報、表示, 95  
環境、測定値の表示, 74

## き

起動、設定, 7

## こ

更新、フラッシュ PROM, 16  
コマンドの概要, 1  
コマンド履歴, 21  
コンソール接続, 10

コンソールポートのコマンド, 1  
コンポーネント、表示, 70  
コンポーネント位置の状態, 43  
コンポーネントの健全性状態 (CHS), 43

## し

時刻  
  設定, 36  
  表示, 73  
システム LED、設定, 42  
システム、リセット, 29  
システムコントローラ  
  設定, 49  
  リセット, 31  
システムコントローラソフトウェアコマンドの概要, 1  
障害 LED、状態の表示, 83

## せ

設定、時刻, 36  
設定、日付, 36

## て

テスト、CPU/メモリーボード, 99  
電源の投入, 27

## ね

ネットワーク、設定の表示, 92  
ネットワーク、パラメータの設定, 47

## は

バージョンおよび稼働時間情報、表示, 95  
パスワード、設定, 24

## ひ

日付  
  設定, 36  
  表示, 73  
表示  
  バージョンおよび稼働時間情報, 95

## ふ

フラッシュ PROM、更新, 16  
プラットフォーム、モデルの表示, 91  
ブレイク文字, 9

## ほ

ボード、テスト, 99  
ボードの状態、表示, 55  
ホスト名、表示, 84

## り

リセット、システム, 29  
リセット、システムコントローラ, 31  
リセット状態、表示, 94

